

(様式第10)

群大医総2第54号  
令和6年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人群馬大学  
学長 石崎 泰樹

### 群馬大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関する報告します。

#### 1 開設者の住所及び氏名

住所	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地
氏名	国立大学法人群馬大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

#### 2 名称

群馬大学医学部附属病院
-------------

#### 3 所在の場所

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39番15号
電話(027) 220-7111

#### 4 診療科名

##### 4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

##### 4-2 標榜している診療科名

###### (1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
<input type="radio"/>	1呼吸器内科
<input type="radio"/>	2消化器内科
<input type="radio"/>	3循環器内科
<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科
<input type="radio"/>	6血液内科
<input type="radio"/>	7内分泌内科
<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科
	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
<input type="radio"/>	11リウマチ科
診療実績	
上記のほか、内分泌糖尿病内科、脳神経内科として医療を提供している。	

1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有
外科と組み合わせた診療科名						
<input type="radio"/> 1呼吸器外科	<input type="radio"/> 2消化器外科	<input type="radio"/> 3乳腺外科	<input type="radio"/> 4心臓外科			
<input type="radio"/> 5血管外科	<input type="radio"/> 6心臓血管外科	<input type="radio"/> 7内分泌外科	<input type="radio"/> 8小児外科			
診療実績						
上記のほか、乳腺・内分泌外科として医療を提供している。						

1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外

(注) 科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/> 1精神科	<input type="radio"/> 2小児科	<input type="radio"/> 3整形外科	<input type="radio"/> 4脳神経外 科
<input type="radio"/> 5皮膚科	<input type="radio"/> 6泌尿器科	<input type="radio"/> 7産婦人科	<input type="radio"/> 8産科
<input type="radio"/> 9婦人科	<input type="radio"/> 10眼科	<input type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/> 12放射線 科
<input type="radio"/> 13放射線診断科	<input type="radio"/> 14放射線治療科	<input type="radio"/> 15麻酔科	<input type="radio"/> 16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有
歯科と組み合わせた診療科名						
<input type="radio"/> 1小児歯科	<input type="radio"/> 2矯正歯科	<input type="radio"/> 3歯科口腔外科				
歯科の診療体制						

1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4 形成外科	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	2	9	0	680	731 (単位:床)

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	285	362	509
歯科医師	9	29	26.9
薬剤師	48	0	48
保健師	0	0	0
助産師	33	0	33
看護師	795	42	825.7
准看護師	0	1	0.2
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	10	0	10

職種	員数
看護補助者	33
理学療法士	18
作業療法士	6
視能訓練士	11
義肢装具士	0
臨床工学士	19
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	55

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査技師	71	
臨床検査	衛生検査技師	0
その他	0	
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	7	
その他の技術員	10	
事務職員	300	
その他の職員	5	

1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	53	眼科専門医	13
外科専門医	27	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	8	放射線科専門医	16
小児科専門医	23	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	16	麻酔科専門医	23
産婦人科専門医	22	救急科専門医	6
合計			251

1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 斎藤 繁 ) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

医療業務安全管理委員会委員長(令和3年4月から現在)

## 9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	593.9 人	13.7 人	607.6 人
1日当たり平均外来患者数	1,759 人	80.5 人	1,839.5 人
1日当たり平均調剤数		269	剤
必要医師数		162.1375	人
必要歯科医師数		6.025	人
必要薬剤師数		21	人
必要(准)看護師数		366	人

- 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- (注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

## 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
集中治療室	1,276 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	17 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有	
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 404 m <sup>2</sup>				病床数 10 床		
	[移動式の場合] 台数 - 台						
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積			62 m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合] 共用する室名						
化学検査室	619 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 臨床化学・免疫自動検査システム, 血液検査システム				
細菌検査室	78 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 細菌同定感受性総合検査システム				
病理検査室	116 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備) 自動標本染色装置, ミクロトーム他				
病理解剖室	208 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 解剖台 他				
研究室	12,750 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) パソコン, 実験台, 遠心分離機, 書籍棚他				
講義室	1,365 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	室数 3 室	収容定員 522 人			
図書室	2,413 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造	室数 2 室	蔵書数 129,996 冊			程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	97.2 %	逆紹介率	120.09 %
算出根拠	A:紹介患者の数		15,857 人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		23,362 人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		3,061 人
	D:初診の患者の数		19,453 人

- 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者団体連合会 理事長 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長		患者団体の代表として多くの経験及び医療の在り方に對しての高い識見を有し、主に医療を受ける者の立場から意見を述べができる者	無	2
神谷 恵子	神谷法律事務所 弁護士		弁護士活動を通じた医療安全等の分野で高い識見を有し、また本院の医療事故調査委員会の外部委員の経験から意見を述べができる者	無	1
川原 武男	社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会 会長		県域の健康福祉行政に豊富な経験を有する立場及び医療を受ける立場から意見を述べができる者	無	2
児玉 安司	新星総合法律事務所 弁護士／医師	○	医師、弁護士として医療安全、医療事故等の分野で高い識見を有する立場から意見を述べができる者	無	1
相馬 孝博	国立大学法人千葉大学 医学部附属病院医療安全管理部 部長		医師及び医療安全管部門の長として医療安全の分野で高い見識を有する立場から意見を述べができる者	無	1
中屋 光雄	群馬県医師会 監事		県域の医療・社会福祉に豊富な経験と知見を有し、医学教育に対しても高い識見を有する立場から意見を述べができる者	無	1

「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

- (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
大学ホームページに掲載 <a href="https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693">https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g25693</a>	

## 高度の医療の提供の実績

## 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数(人)
重粒子線治療	36人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	58人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	3人
細胞診検体を用いた遺伝子検査	0人
子宮内細菌叢検査2(フローラ検査)	10人
先進医療の種類の合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	107人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	マイトラクリップ	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
僧帽弁閉鎖不全症に対する経カテーテル的修復術			
医療技術名	マーシャル静脈アブレーション	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
難治性心房細動に対して、マーシャル静脈にエタノールを注入することで心房細動を治療する化学的アブレーション			
医療技術名	左心耳閉鎖術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
出血リスクの高い心房細動患者に対する経カテーテル的な左心耳閉鎖デバイスの留置術			
医療技術名	心外膜アブレーション	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
難治性心室頻拍に対して経皮的に心外膜からアプローチして心筋焼灼する技術			
医療技術名	侵襲的心肺運動負荷試験	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
原因不明の労作時呼吸困難患者あるいは肺高血圧患者に対して、運動中の血行動態把握のための右心カテーテル検査			
医療技術名	インペラ(補助循環用ポンプカテーテル)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
超小型ポンプを内蔵したカテーテルを左室内にいれて血液を吸いし、大動脈内から駆出する補助循環技術			
医療技術名	アテローム切除アブレーション式血管形成術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
高度石灰化した冠動脈病変を衝撃波を血管内から照射して石灰化を破碎するカテーテル治療			
医療技術名	難治性喘息・難治性好酸球性疾患に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	41
当該医療技術の概要			
全身性ステロイド治療を要する、または頻回な増悪をきたす難治性喘息および難治性好酸球性疾患である好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対して、生物学的製剤による治療を行うことで病状を安定化させる。			
医療技術名	早期十二指腸悪性腫瘍粘膜下層剥離術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
十二指腸腫瘍に対して内視鏡治療として全身麻酔下で内視鏡的粘膜下層剥離術を行う。			
医療技術名	経皮経肝門脈形成術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
門脈狭窄・閉塞に対して門脈ステント・バルーンカテーテルを使用して経皮経肝的門脈形成術を行う。			
医療技術名	CSII(インスリンポンプ療法)／SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	26
当該医療技術の概要			
リアルタイムCGMを併用し、携帯型インスリンポンプを可変的かつ持続的に皮下にインスリン注入する治療法			

医療技術名	核酸医薬を用いた脊髄性筋萎縮症に対する新規治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
SMN(survival motor neuron)2遺伝子のmRNA前駆体のimtron7に相補的に結合し、本来欠失するexon7を含む完全長のSMN蛋白を作らせるアンチセンス核酸医薬を髄注することで症状の改善を図る新規治療。			
医療技術名	難治性神経疾患ならびに遺伝性疾患に対する遺伝子検査ならびに遺伝カウンセリング	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
希少疾患に対する豊富な知識と遺伝学的カウンセリングがともに行える環境が必要である。			
医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	95
当該医療技術の概要			
胸部・腹部大動脈瘤に対して開胸・開腹を加えずに血管内で治療が可能。			
医療技術名	弁形成術	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
弁膜症に対して人工弁を使わずに形成のみで治療を行う。(ワーファリンなどの投薬が不要となる。)			
医療技術名	オフポンプ冠動脈バイパス	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
狭心症に対する治療で人工心肺を使用せず、拍動下で行う治療。			
医療技術名	腹腔鏡下脾体尾部切除術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
脾臓の腫瘍に対して、腹腔鏡手術の適応を見極め、開腹ではなく腹腔鏡を用いて低侵襲な手術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除以上)	取扱患者数	78
当該医療技術の概要			
肝臓の腫瘍に対して、腹腔鏡手術の適応を見極め、亜区域切除以上の拡大術式に関して、腹腔鏡を用いた肝切除を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
高度肥満症に対して、胃の縮小術を行うことで減量効果に加えて肥満に関連した合併症治療により生命予後を改善することを目的に実施している。			
医療技術名	腹腔鏡下およびロボット支援下括約筋間直腸切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
肛門を開鎖する筋肉のうち内肛門括約筋のみを切除し外肛門括約筋は残して自然肛門を温存する手術を患者さんのご希望と根治性を加味して、腹腔鏡下およびロボット支援下で行う。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(広汎切除)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
早期子宮頸癌に対して、腹腔鏡下に広汎子宮全摘術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下リンパ節群郭清術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
子宮体癌から傍大動脈リンパ節群に転移したものに対して行う。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体癌)	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
早期子宮体癌に対して、腹腔鏡下にリンパ節生検もしくは郭清術を含む子宮悪性腫瘍手術を行う。			

医療技術名	再建を伴う口腔癌手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要			
遊離皮弁、有茎皮弁を用いた再建を伴う口腔癌手術			
医療技術名	覚醒下開頭脳腫瘍摘出術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
言語野に浸潤する神経膠腫に対して、開頭後に疼痛管理を行いながら覚醒させ言語野の同定を行う。			
言語機能を温存しながら最大限の摘出が可能となる。麻酔科、リハビリテーション科との共同が必要となる。			
医療技術名	内視鏡下拡大蝶形骨洞手術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
頭蓋咽頭腫などの鞍上部腫瘍に対して内視鏡下に経鼻的に頭蓋内へ到達する術式。閉創技術の難易度が高い。			
医療技術名	Flow diverter stent留置術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
未破裂大型脳動脈瘤に対して行う。動脈瘤頸部を形成するステントを留置することで瘤内の血流を減じて母血管の内皮形成を促す。術者が限定されている。			
医療技術名	もやもや病に対する血行再建術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
難病であるもやもや病に対する脳血流維持などを目的とした血行再建術。微細血管への吻合を行うなど難易度が高い。			
医療技術名	小児における急性血液浄化療法(体外循環を用いる)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
小児の急性腎障害、多臓器不全などに対して、体外限外濾過、血液濾過、血液濾過透析、血液透析を行う。体格の小さい小児に対するブレッドアクセスとその管理や鎮静を含む全身管理には集学的な高度医療を要する。			
医療技術名	小児慢性腎不全に対する腹膜透析療法・管理	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
小児における保存期および末期腎不全の全身管理は成人と異なり、成長を念頭に置いた補充療法や、慢性腎不全に対する腹膜透析療法は透析処方およびカテーテル管理に高度の技術と専門性を要する。			
医療技術名	乳幼児における開放性腎生検	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
乳幼児における腎生検は腎サイズが小さいこと、局所麻酔では安全な安静が確保できないことから、全身麻酔管理下に泌尿器科医による開放性腎生検を要し、集学的な高度医療である。			
医療技術名	長時間脳波検査	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
てんかんにおける焦点特定や発作型の判定、てんかん外科の適応の判断において重要とされている。数時間～数日間の記録を必要とし、小児においては測定・記録できる施設が限られているうえに、記録・判読にも高度な技術を要する。			
医療技術名	終夜睡眠ポリグラフ検査	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
睡眠障害や夜間の呼吸障害の鑑別に有用である。測定機器を有する施設が限られており、特に小児においては計測の技術や検査結果の判読に熟練を要する。			
医療技術名	難治性疾患ならびに遺伝性疾患に対する遺伝子検査ならびに遺伝カウンセリング	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
希少疾患に対する豊富な知識と遺伝学的カウンセリングがともに行える環境が必要である。			
医療技術名	に対するCSII(インスリンポンプ療法)／SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	40
当該医療技術の概要			
小児糖尿病患者に対する電動式携帯ポンプにより可変式かつ持続的に皮下にインスリン注入する治療法。			

医療技術名	小児の難治性内分泌腫瘍の薬物治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
手術不能例や再発例の下垂体性巨人症、クッシング症候群などの小児の難治性内分泌腫瘍に対し専門的な薬物療法を施行し、症状の改善を得る。			
医療技術名	小児の家族性高コレステロール血症ホモ接合体に対する抗PCSK9モノクローナル抗体製剤治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
家族性高コレステロール血症ホモ接合体小児例に対し、抗PCSK9モノクローナル抗体を投与することで、LDL吸着療法を回避する。			
医療技術名	難治性アレルギー性疾患に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
小児期発症難治性アレルギー性疾患は免疫異常を有する頻度が高く、アレルギー反応等も重篤であり、専門的な知識と対応を要する。			
医療技術名	免疫異常症に対する生物学的製剤による治療	取扱患者数	43
当該医療技術の概要			
小児の免疫異常症は若年性特発性関節炎、ぶどう膜炎、自己炎症性疾患・炎症性腸疾患など希少な疾患が多岐にわたるため、豊富な知識と経験を必要とする。			
医療技術名	ムコ多糖症II型の中枢神経症状に対する酵素製剤の脳室内投与治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
ムコ多糖症II型患者に対し、酵素製剤Idursulfase- $\beta$ の脳室内投与を行うことにより、中枢神経症状を回避する			
医療技術名	ジアゾキサイド不応性先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注射療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
ジアゾキサイド不応性高インスリン血症患者に対して、ポータブルインスリン用輸液ポンプを用いたオクトレオチド持続皮下注射を行い、低血糖症状を改善させる。			
医療技術名	小児に対する消化器内視鏡検査	取扱患者数	150
当該医療技術の概要			
小児では鎮静下に検査を行う必要がある他腹壁が薄いこと、成人と異なる病態により所見が異なることなどから専門的な知識と経験を要する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	42
取扱い患者数の合計(人)	764

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	11	65	下垂体前葉機能低下症	317
2	筋萎縮性側索硬化症	24	66	甲状腺ホルモン不応症	2
3	脊髄性筋萎縮症	2	67	アジソン病	5
4	原発性側索硬化症	1	68	サルコイドーシス	226
5	進行性核上性麻痺	3	69	特発性間質性肺炎	123
6	パーキンソン病	140	70	肺動脈性肺高血圧症	246
7	大脳皮質基底核変性症	2	71	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	16
8	シャルコー・マリー・トゥース病	6	72	リンパ脈管筋腫症	12
9	重症筋無力症	125	73	網膜色素変性症	5
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	107	74	特発性門脈亢進症	1
11	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパシー	19	75	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	140
12	封入体筋炎	6	76	原発性硬化性胆管炎	6
13	クロウ・深瀬症候群	1	77	自己免疫性肝炎	33
14	多系統萎縮症	12	78	クローニ病	348
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	58	79	潰瘍性大腸炎	264
16	ライソゾーム病	1	80	好酸球性消化管疾患	17
17	ミトコンドリア病	23	81	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
18	もやもや病	30	82	クリオピリン関連周期熱症候群	2
19	進行性多巣性白質脳症	1	83	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	2
20	特発性基底核石灰化症	1	84	筋ジストロフィー	7
21	全身性アミロイドーシス	27	85	脊髄空洞症	8
22	遠位型ミオパシー	1	86	脊髄髓膜瘤	1
23	自己貪食空胞性ミオパシー	1	87	アイザックス症候群	2
24	神経線維腫症	14	88	脳表ヘモジデリン沈着症	2
25	天疱瘡	37	89	アレキサンダー病	1
26	表皮水疱症	2	90	レノックス・ガストー症候群	1
27	膿疱性乾癬(汎発型)	2	91	結節性硬化症	14
28	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	92	先天性魚鱗癬	1
29	中毒性表皮壊死症	1	93	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
30	高安動脈炎	9	94	特発性後天性全身性無汗症	8
31	巨細胞性動脈炎	3	95	眼皮膚白皮症	1
32	結節性多発動脈炎	79	96	マルファン症候群	3
33	顕微鏡的多発血管炎	67	97	エーラス・ダンロス症候群	2
34	多発血管炎性肉芽腫症	58	98	無脾症候群	2
35	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	37	99	ウェルナー症候群	4
36	悪性関節リウマチ	11	100	プラダー・ウイリ症候群	3
37	バージャー病	51	101	ヌーナン症候群	1
38	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	102	単心室症	3
39	全身性エリテマトーデス	609	103	三尖弁閉鎖症	1
40	皮膚筋炎／多発性筋炎	270	104	ファロー四徴症	1
41	全身性強皮症	472	105	急速進行性糸球体腎炎	46
42	混合性結合組織病	77	106	抗糸球体基底膜腎炎	1
43	シェーグレン症候群	490	107	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
44	成人スチル病	25	108	オスラー病	4
45	再発性多発軟骨炎	11	109	肺胞低換気症候群	3
46	ペーチェット病	107	110	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	2
47	特発性拡張型心筋症	30	111	副甲状腺機能低下症	8
48	肥大型心筋症	21	112	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4
49	再生不良性貧血	45	113	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1
50	自己免疫性溶血性貧血	17	114	フェニルケトン尿症	1
51	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6	115	尿素サイクル異常症	1
52	特発性血小板減少性紫斑病	54	116	家族性地中海熱	5
53	血栓性血小板減少性紫斑病	2	117	化膿性無菌性関節炎・壞疽性膿皮症・アクリン症候群	6
54	原発性免疫不全症候群	27	118	強直性脊椎炎	18
55	IgA腎症	50	119	骨形成不全症	1
56	多発性囊胞腎	5	120	後天性赤芽球病	2
57	黄色靭帯骨化症	11	121	遺伝性膀胱炎	1
58	後縫靭帯骨化症	34	122	IgG4関連疾患	25
59	下垂体性ADH分泌異常症	72	123	黄斑ジストロフィー	3
60	下垂体性TSH分泌亢進症	11	124	若年発症型両側性感音難聴	1
61	下垂体性PRL分泌亢進症	42	125	好酸球性副鼻腔炎	53
62	クッシング病	18	126	遺伝性自己炎症疾患	2
63	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	27	127	特発性多中心性キャッスルマン病	5
64	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	42			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	127
合計患者数(人)	5,580

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算3
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算2
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算1
・診療録管理体制加算1	・認知症ケア加算2
・医師事務作業補助体制加算2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算	・地域医療体制確保加算
・看護補助加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・新生児特定集中治療室管理料2
・放射線治療病室管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・術後疼痛管理チーム加算	・

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)
・外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	・ニコチン依存症管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・がん治療連携計画策定料
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料イ	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料ロ	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料ハ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料1
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料(歯科)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・歯科治療時医療管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・小児運動器疾患指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料2	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・婦人科特定疾患治療管理料	・染色体検査の注2に規定する施設基準
・腎代替療法指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・一般不妊治療管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・生殖補助医療管理料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・先天性代謝異常症検査
・二次性骨折予防継続管理料3	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・下肢創傷処置管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・外来放射線照射診療料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・検体検査管理加算(Ⅰ)

施設基準の種類	施設基準の種類
・検体検査管理加算(IV)	・CT撮影及びMRI撮影
・国際標準検査管理加算	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・乳房MRI撮影加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・小児鎮静下MRI撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・頭部MRI撮影加算
・人工肺臓検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外来化学療法加算1
・光トポグラフィー	・無菌製剤処理料
・神経学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・黄斑局所網膜電図	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・がん患者リハビリテーション料
・コンタクトレンズ検査料1	・リンパ浮腫複合的治療料
・小児食物アレルギー負荷検査	・児童思春期精神科専門管理加算(通院・在宅精神療法)
・内服・点滴誘発試験	・療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)
・センチネルリンパ節生検(片側)	・認知療法・認知行動療法1
・精密触覚機能検査	・精神科作業療法
・画像診断管理加算1	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・画像診断管理加算4	・医療保護入院等診療料
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・人工腎臓
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法

施設基準の種類	施設基準の種類
・ストーマ合併症加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・人工膀胱療法	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・手術用顎微鏡加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・口腔粘膜処置	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用))(乳がんセンチネルリンパ節加算1))
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用))(センチネルリンパ節生検(併用))
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緊急穿頭血腫除去術	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・内視鏡下筋層切開術
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎孟)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁に対して実施する場合)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・角膜移植術(内皮移植加算)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・羊膜移植術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・経皮的中隔心筋焼灼術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・網膜再建術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)

施設基準の種類	施設基準の種類
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎孟形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・生体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・精巣内精子採取術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下仙骨腔固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下胆囊悪性腫瘍手術(胆囊床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外式膜型人工肺管理料
・生体部分肝移植術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)
・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術	・遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術
・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術	・遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血管理料 I
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯周組織再生誘導手術
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・広範囲頸骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・口腔粘膜血管腫凝固術

施設基準の種類	施設基準の種類
・レーザー機器加算	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・周術期薬剤管理加算	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・一回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・粒子線治療	・
・粒子線治療適応判定加算	・
・粒子線治療医学管理加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・看護職員待遇改善評価料64	・
・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	・
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	・
・入院ベースアップ評価料74	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	8	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	15
	剖検率(%)	5.2

(注)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規自己抗体標的抗原に着目した自己免疫関連生殖機能障害の病態解明と早期診断法確立	岩瀬 明	産科婦人科学分野	2,990,000	補委
HPV関連癌の免疫病態解明とHPV特異的免疫療法の開発	近松 一朗	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	2,600,000	補委
脂質異常症の病態における毛細血管内皮細胞アンカー蛋白GPIHBP1の役割の解明	村上 正巳	検査部	5,330,000	補委
Galectin 3阻害剤創薬による難治疾患の病態解明と治療応用を目指した研究	調 憲	肝胆膵外科学分野	4,550,000	補委
前頭前野が内因性鎮痛に果たす役割-下行性抑制の最上位中枢なのか?-	須藤 貴史	麻酔神経科学分野	7,280,000	補委
Astroblastomaにおける分子遺伝学的多様性と臨床病理学的特徴の関連を解明する	信澤 純人	病態病理学分野	1,690,000	補委
糖尿病と神経変性疾患の相互増悪に対する治療法開発	土岐 明子	生体情報検査科学	1,430,000	補委
精神疾患の「内発症状」の脳機構についてのリアルワールド脳画像研究	福田 正人	神経精神医学分野	2,860,000	補委
皮膚、肺、腸管に対する炭素イオノン線FLASH効果のLET依存性に関する検討	大野 達也	腫瘍放射線学分野	1,430,000	補委
AIによる重粒子線治療後QOL予測を利用した意思決定支援システムの構築	河村 英将	医学部門	2,600,000	補委
KRAS変異陽性肺癌の進展に関する分子機構の解明と新規治療法の開発	砂長 則明	呼吸器・アレルギー内科	2,600,000	補委
喘息の発症・重症化に悪影響を与える環境因子に対する研究-病態解明と予防-	久田 剛志	リハビリテーション学(理学療法学)	1,820,000	補委
シングルセルゲノムクスによる視床下部・下垂体-甲状腺系の分泌機構と病態の解明	堀口 和彦	内分泌糖尿病内科	1,690,000	補委
多発性内分泌腫瘍症1型の腫瘍発症における MEN1遺伝子病的バリエントの役割	小澤 厚志	看護学	1,820,000	補委
動脈硬化症の新たな指標:リボタンパクリバーゼの臨床的意義の確立	木村 孝穂	臨床検査医学分野	1,820,000	補委
肝癌におけるサルコペニアの影響と免疫治療耐性機序による新規治療ターゲットの創出	新木 健一郎	肝胆膵外科	1,820,000	補委
食道癌個別化治療の実現を目指した免疫チェックポイント阻害薬効果予測モデルの確立	宗田 真	消化管外科学分野	1,820,000	補委
T細胞を中心とした制御性免疫システムが及ぼす大動脈弁石灰化進行・制御の解明	立石 渉	循環器外科	1,820,000	補委
小細胞肺癌に対するDNA損傷応答とFOXM1を標的とした新規治療法の開発	大瀧 容一	呼吸器外科	1,560,000	補委
肥満細胞を用いた周術期アナフィラキシーの診断と発症メカニズムの解明	堀内 辰男	麻酔神経科学分野	2,080,000	補委
がん疼痛による脳の形態的・機能的变化の解析:慢性化する痛みと治療効果の検証	山田 真紀子	腫瘍センター	1,950,000	補委
手術侵襲による術後認知機能障害の分子生物学的解明とその治療法の探求	門井 雄司	手術部	1,820,000	補委

青斑核A6-A1/A2ノルアドレナリシン作動性神経核を介した慢性痛ネットワークの解明	太田 浩	麻酔神経科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
新たな心肺蘇生法確立を目指した心肺停止・蘇生による細胞死の解明に関する基礎的研究	大嶋 清宏	救急医学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
アボトーシス誘導とFGFR阻害薬耐性メカニズムの解明による新規尿路上皮癌治療への展開	新井 誠二	泌尿器科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌における癌関連線維芽細胞の機能的多様性の解明と治療戦略の創出	富所 雄一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	2,340,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来の間葉系幹細胞を付加した脂肪移植を用いた乳房再建に関する研究	牧口 貴哉	形成外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
加熱式たばこによる受動喫煙の実態と妊娠予後	篠崎 博光	看護学	1,430,000	補委	日本学術振興会
骨格筋由来のリパーゼ作用を介した脂質代謝メカニズムの性差の解明	常川 勝彦	検査部	1,430,000	補委	日本学術振興会
子宮頸部腺癌臨床検体における重粒子線治療後の免疫チェックポイント分子の発現と機構	熊澤 琢也	医学部門	130,000	補委	日本学術振興会
胃癌間質におけるTGFBIを標的とした新規癌治療戦略の開発	中澤 信博	地域医療研究・教育センター	2,340,000	補委	日本学術振興会
セルフリーDNAを用いたKRAS codon12変異解析による革新的膵癌治療戦略	五十嵐 隆通	肝胆膵外科学分野	2,600,000	補委	日本学術振興会
DNA傷害応答に着目した髄芽腫の層別化と新規治療法開発	中田 聰	脳神経外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷モデルマウスを用いたヒドロコルチゾン21-ヘミコハク酸の治療効果の検証	三枝 徳栄	整形外科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌における循環癌細胞ならびに循環癌関連線維芽細胞の臨床意義の解析	井田 翔太	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔癌と内臓脂肪型肥満の間に生じる組織学的分化度依存的なネットワークの解明	喜名 美香	歯科口腔・顎顔面外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
運転免許取得が困難な方を対象とした特別な自動車教習コース受講者の追跡調査	伊部 洋子	リハビリテーション部	1,040,000	補委	日本学術振興会
高体温がエネルギー代謝に与える影響:熱中症に対する安全な栄養療法を探る	大澤 好充	小児科	2,080,000	補委	日本学術振興会
アミノ酸トランスポーターに注目した難治性大腸癌に対する革新的治療戦略の確立	柴崎 雄太	消化管外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
死後冠動脈造影CT検査による心筋虚血部位の自動画像解析-冠動脈疾患診断法の新規開発-	福田 治紀	法医学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
VR技術を用いた半側空間無視のリハビリテーション手法の開発	和田 直樹	リハビリテーション医学分野	650,000	補委	日本学術振興会
死後MRIを加えた心臓の包括的検索と遺伝子解析による心臓突然死の死因究明システム	徳江 浩之	放射線部	1,040,000	補委	日本学術振興会
多発性骨髄腫における「microRNA-DNA修復機構」の薬剤耐性のメカニズム	齋藤 貴之	生体情報検査科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
従来型動員法より見た次世代型末梢血幹細胞動員法の総合的理解	横濱 章彦	輸血部	1,300,000	補委	日本学術振興会
摂食障害患者における「不確実性への不耐性」の脳基盤の解明	須田 真史	精神科神経科	1,430,000	補委	日本学術振興会
自己重合化能を有する高分子化合物を用いた腫瘍特異的な超音波造影剤の開発	対馬 義人	放射線診断核医学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
膵癌に対する重粒子線治療の時間的・空間的最適化に関する研究	岡本 雅彦	腫瘍放射線学分野	1,040,000	補委	日本学術振興会

頭頸部放射線治療時の口腔粘膜炎発症予測情報の共有による新規介入方法の検討	武者 篤	医学部門	1,560,000	補委	日本学術振興会
房室輪関連頻拍の概念・診断法・治療法の確立	金古 善明	循環器内科	520,000	補委	日本学術振興会
COVID流行下における冠動脈インターベンションレジストリー創設・アウトカム研究	石井 秀樹	循環器内科学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病におけるTgm2-p62-p53複合体とオートファジー調節機構	山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
フローサイトメトリーを利用した腎線維化機序の解明	廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
皮膚炎症性疾患における温度感受性TRPチャネルの役割と治療への応用	茂木 精一郎	皮膚科学分野	910,000	補委	日本学術振興会
重粒子線による代償性肝肥大を利用した肝腫瘍に対する新たな集学的治療法の開発	渋谷 圭	腫瘍放射線学分野	910,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤の耐性克服を目指した革新的温熱複合療法の開発	佐野 彰彦	消化管外科学分野	1,040,000	補委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシーの発症機序解明:好塩基球活性化試験と受身感作を用いて	折原 雅紀	集中治療部	780,000	補委	日本学術振興会
イモ貝毒のコトキシンを用いた新しい鎮痛徐放製剤の開発	松岡 宏晃	集中治療部	910,000	補委	日本学術振興会
下行性抑制系を介した神経障害性痛および術後痛における薬物作用機序	三枝 里江	麻酔・集中治療科	1,430,000	補委	日本学術振興会
長時間作用性局所麻酔薬の応用と周術期管理	戸部 賢	集中治療部	1,300,000	補委	日本学術振興会
骨巨細胞腫に対するヒトRANKLモノクローナル抗体による光免疫療法の開発	筑田 博隆	整形外科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
メタボローム解析を用いた急速破壊型股関節症におけるバイオマーカーの検索	高嶺 周平	整形外科	910,000	補委	日本学術振興会
遺伝子解析からみた前立腺癌家族歴と遺伝性に関する研究	鈴木 和浩	泌尿器科学分野	130,000	補委	日本学術振興会
卵巣腫瘍の浸潤転移における核の剛性維持蛋白ラミンの役割の解明	齊尾 征直	生体情報検査科学	650,000	補委	日本学術振興会
マウスモデル確立によるpachychoroidの病態解明と新規治療法開発	松本 英孝	眼科	1,820,000	補委	日本学術振興会
フザリウムによる真菌性角膜炎の重症化におけるマイコトキシンの関与の解明	戸所 大輔	眼科学分野	520,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性口腔癌におけるRadiomicsを応用したプレシジョンメディシンの構築	金 舞	歯科口腔・顎顔面外科	520,000	補委	日本学術振興会
基礎・臨床科目実習を活用したチームワークリーダーシップ教育の開発と評価	田中 和美	医療の質・安全学分野	520,000	補委	日本学術振興会
嚥下内視鏡検査におけるホワイトアウトの輝度を用いた嚥下圧の客観的評価法の開発	五味 曜憲	歯科口腔・顎顔面外科	260,000	補委	日本学術振興会
プロボクサーにおける試合前の運動機能向上と脳機能・構造画像の相関解析	熊倉 みなみ	地域医療研究・教育センター	910,000	補委	日本学術振興会
サルコペニア高齢者の薬物代謝能力及び相互作用評価システムの開発と副作用リスク回避	戸島 洋貴	消化器・肝臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
放射線治療の個別最適化を目指したメタボロミクス・リバースTR	尾池 貴洋	放射線治療科	650,000	補委	日本学術振興会
不顕性誤嚥の検出における唾液腺シンチグラフィーの応用	平澤 裕美	放射線部	1,300,000	補委	日本学術振興会

多機能性粘膜下局注材を用いる早期消化管癌の低侵襲治療法の創出と実証	浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科学分野	1,820,000	補委	日本学術振興会
遺伝性心筋症の進行におけるATP可視化モデルをもつた心筋エネルギー代謝の解析	小板橋 紀通	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規炎症収束性脂質メディエーターRsolvineE群はARDSの治療薬となり得るか	齋藤 悠	呼吸器・アレルギー内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病へのmiR-143/145の関与を明らかにする	坂入 徹	腎臓・リウマチ内科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
ATOH8遺伝子の糸球体上皮細胞における機能と発現制御機序の解明	浜谷 博子	腎臓・リウマチ内科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
ボドサイト細胞生物学による特発性ネフローゼ症候群鑑別診断法の臨床応用	小林 靖子	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会
転写因子SOX2による皮膚虚血再灌流障害(急性期褥瘡)の制御機構の解明	内山 明彦	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
掌蹠型角化機構の解明と再生医療への応用	安田 正人	皮膚科学分野	1,300,000	補委	日本学術振興会
がん細胞特異的アミノ酸トランスポーターを標的とした新規複合的がん免疫療法の開発	酒井 真	消化管外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝がんの分化規定遺伝子の同定と革新的治療法の開発	播本 憲史	肝胆膵外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
好塩基球のMRGPRX2をターゲットとしたアナフィラキシーのメカニズムの解明	南雲 一洋	麻酔・集中治療科	650,000	補委	日本学術振興会
肩腱板断裂における中枢神経の運動制御機能の解明	設楽 仁	整形外科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
副腎癌に対する抗サバイビン光抗体療法と重粒子線免疫療法の基礎的研究	小池 秀和	泌尿器科	1,690,000	補委	日本学術振興会
神経内分泌細胞分化前立腺癌における脂質代謝を介した増殖メカニズムの基礎的検討	関根 芳岳	泌尿器科学分野	1,170,000	補委	日本学術振興会
COVID-19パンデミックが循環器疾患診療に与える影響—ビッグデータでの検討—	大山 善昭	先端医療開発センター	520,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜症微小環境の時空的プロファイリングと部位特異的内膜症形質の関連解析	岩瀬 明	産科婦人科学分野	2,860,000	補委	日本学術振興会
SF-1を介した変異KCNJ5抑制による原発性アルドステロン症の治療開発	錦戸 彩加	地域医療研究・教育センター	260,000	補委	日本学術振興会
抑制性神経伝達障害に着目した統合失調症の新規治療法開発	藤原 和之	精神科神経科	910,000	補委	日本学術振興会
腫瘍の炭素イオン治療反応性に関連する遺伝子変異のゲノム網羅的探索	安藤 謙	放射線治療科	2,080,000	補委	日本学術振興会
肺高血圧症を標的とした左室駆出率の保たれた心不全の多角的・包括的病態解明	小保方 優	循環器内科	390,000	補委	日本学術振興会
神経障害性疼痛における脊髄GABA受容体機能変化とオピオイド作用減弱機序の解明	廣木 忠直	麻酔・集中治療科	1,690,000	補委	日本学術振興会
集中治療を要する患者における消費エネルギー推測式の新規作成	竹前 彰人	麻酔・集中治療科	1,560,000	補委	日本学術振興会
骨粗鬆のある脊椎に対する体外衝撃波を用いた新規治療法の開発とその基盤研究	高澤 英嗣	整形外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
子宮体癌の進展へ与える脱ユビキチン化酵素の作用機序の解明	中尾 光資郎	産科婦人科学分野	1,430,000	補委	日本学術振興会
群馬県における自主退院(DAMA)の現状分析	大石 裕子	医療の質・安全管理部	1,170,000	補委	日本学術振興会

前腕屈筋群・円回内筋の筋弾性度は内側野球肘の予測因子となるか?	田鹿 肇	リハビリテーション学 (理学療法学)	780,000	補委	日本学術振興会
子宮頸部腺癌に対する放射線治療における免疫関連分子と予後の評価	宮坂 勇平	医学部門	780,000	補委	日本学術振興会
気管支喘息におけるpH感知性TDAG8を介した新規メカニズムの解明	鶴巻 寛朗	呼吸器・アレルギー内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
皮膚筋炎、SLEにおける初期病態形成機序の解明	栗山 裕子	皮膚科	1,560,000	補委	日本学術振興会
急性骨髓性白血病細胞の増殖におけるラミニン-インテグリン-カドヘリン系の関与	小林 宣彦	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
大腸癌の腫瘍・間質形態に基づいた革新的免疫複合療法の開発	白石 卓也	消化管外科	2,730,000	補委	日本学術振興会
炎症性大腸癌におけるMAdCAM-1に着目した新規治療の開発	大曾根 勝也	消化管外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞エクソソームを用いた重症熱傷に対する新たな治療法の開発	澤田 悠輔	救急医学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳虚血再灌流障害におけるフェローシスの抑制による新規脳保護療法の確立	神徳 亮介	脳神経外科学分野	1,950,000	補委	日本学術振興会
光免疫療法による関節リウマチFLSを標的とした新規治療法の開発	須藤 貴仁	整形外科	910,000	補委	日本学術振興会
初期胚発生におけるエンドサイトーシス関連タンパク質の網羅的解析	森田 昌人	産科婦人科	520,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌患者における末梢血循環癌細胞のシングルセル解析	多田 紘恵	耳鼻咽喉科	1,950,000	補委	日本学術振興会
視神経屈曲のある鞍上部腫瘍における眼循環の解明	篠原 洋一郎	眼科	260,000	補委	日本学術振興会
骨格筋の廃用性萎縮に低栄養ストレスが与える影響の解明—遺伝子発現の網羅的解析—	佐々木 肇志	整形外科学分野	910,000	補委	日本学術振興会
SLFN11は髄芽腫治療の層別化における新規バイオマーカーとなるか	中田 聰	脳神経外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
頸髄症患者におけるVirtual Realityを用いた術前後運動能力の定量的評価	本田 哲	整形外科	390,000	補委	日本学術振興会
途上国におけるセミデジタル補聴集音器の実証	茂木 雅臣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	390,000	補委	日本学術振興会
小児急性骨髓性白血病の分子病態と発症年齢に基づく新たなリスク層別化治療の構築	原 勇介	小児科	1,063,426	補委	日本学術振興会
小児から若年成人での生物学的製剤の適正使用に関するエビデンスの創出	滝沢 琢己	小児科学分野	6,000,000	補委	厚生労働省
骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌を対象とした多施設共同前向き観察研究	鈴木 和浩	泌尿器科	519,750	補委	(一財)日本泌尿器科学会
閉経後ホルモン受容体陽性切除不能および転移・再発乳癌に対するパルボシクリプ療法の観察研究	藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	60,000	補委	(一社)CSPOR-BC
HAMRET Study 切除不能肝細胞癌における薬物療法の前向き観察研究	調 憲	肝胆脾外科	176,000	補委	(一社)九州消化器癌化学療法研究会
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	300,000	補委	(国研)国立国際医療研究センター
日本における免疫性血栓性血小板減少性紫斑病(iTTP)の前向きレジストリ研究—Japan iTTP Registry Study (jiTS)—	小川 孔幸	血液内科	55,000	補委	(公大)奈良県立医科大学

食道アカラシアの前駆状態とされる食道胃接合部通過障害に対するアコチアミドの有効性と安全性を検討する第II相医師主導治験	浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	3,900,000	補委	(国大)法人 九州大学
神経発達障害の病因解明を目指したクロマチンの3次元構造解析	滝沢 琢己	小児科	7,800,000	補委	(国大)東京 大学
家族性大腸腺腫症に対するWT1がんワクチン免疫療法第II相医師主導治験	竹内 洋司	光学医療診療部	513,500	補委	(国大)大阪 大学
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関する分子基盤の探索	半田 寛	血液内科	260,000	補委	(公財)がん 研究会
安全な遺伝子治療を目指した万能塩基編集ツールの創出	小板橋 紀通	循環器内科	780,000	補委	(国大)東京 大学
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患(SSc-ILD)に対するPAI-1阻害薬TM5614の第II相医師主導治験	茂木 精一郎	皮膚科	4,550,000	補委	(国大)東北 大学
心不全の包括的介入が心不全患者の認知機能に与える影響を検討する研究開発	小保方 優	循環器内科	10,000,000	補委	(国研)日本 医療研究開 発機構
心不全の包括的介入が心不全患者の認知機能に与える影響を検討する研究開発	小保方 優	循環器内科	9,500,000	補委	(国研)日本 医療研究開 発機構
放射線治療に関するトランスレーショナルリサーチ実施体制構築	尾池 貴洋	放射線治療科	100,000	補委	(国研)国立 がん研究セン ター
未治療高腫瘍量漿胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第III相試験	横濱 章彦	血液内科	650,000	補委	(国大)東北 大学
免疫調節治療を要する患者の安全な妊娠・出産を実現するためのエビデンス構築	石毛 崇	小児科	650,000	補委	(国大)東北 大学
TNF $\alpha$ 阻害薬使用下での弱毒生ワクチン接種の有効性と安全性(分担研究課題:TNF $\alpha$ 阻害薬使用中の炎症性腸疾患患者における弱毒生ワクチン接種)	石毛 崇	小児科	50,000	補委	(国研)国立 成育医療研 究センター
小児のウイルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究	羽鳥 麗子	小児科	390,000	補委	(公大)和歌 山県立医科大学
Tissue engineering技術による早期消化管癌内視鏡的切除後粘膜欠損を被覆・補強する生体吸収性インジェクタブルグの開発	浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	25,987,000	補委	(国研)日本 医療研究開 発機構
髄芽腫、非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究	信澤 純人	病理部	1,950,000	補委	(地独)大阪 市民病院機 構
家族性大腸腺腫症の重症化リスク低減手法の実用化を目指した臨床介入検証	竹内 洋司	光学医療診療部	1,000,000	補委	京都府公 立大学法人
全身性強皮症の血管障害への新治療薬による医師主導治験研究	茂木 精一郎	皮膚科	6,795,679	補委	(国大)大分 大学
「大学病院臨床試験アライアンス」における模擬DCTの実施及び、単□RB審議会体制整備とCRB品質向上のための「アライアンス臨床研究コンシェルジュ」の開発	大山 善昭	先端医療開発セン ター	910,000	補委	(国大)東京 医科歯科大 学
初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	信澤 純人	病理部	260,000	補委	(国大)京都 大学
小児上衣腫に対する手術摘出度と分子学的マーカーを用いた治療層別化による集学的治療の安全性と有効性確立に向けた研究開発	信澤 純人	病理部	260,000	補委	(国大)東海 国立大学機 構
周術期アナフィラキシーのin vitro検査による診断法の確立と全国疫学調査	堀内 辰男	麻酔・集中治療科	812,942	補委	(国大)富山 大学

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takasawa, Eiji; Iizuka, Yoichi; Mieda, Tokue et al.	整形外科	Trends in cervical laminoplasty and 30-day postoperative complications: 10-year results from a retrospective, multi-institutional study of 1095 patients	EUROPEAN SPINE JOURNAL. 2023 OCT;32: 3575-3582	Original Article
2	Sasaki, Tsuyoshi; Yamada, Eijiro; Uehara, Ryota et al.	整形外科学分野	Role of Fyn and the interleukin-6-STAT-3-autophagy axis in sarcopenia	SCIENCE.2023 OCT;26	Original Article
3	Honda, Akira; Iizuka, Yoichi; Michihata, Nobuaki et al.	整形外科	Risk factors for early mortality in elderly patients with unstable isolated C2 odontoid fracture treated with halo-vest or surgery	SCIENTIFIC REPORTS.2023 OCT;13	Original Article
4	Suto, Takahito; Okamura, Koichi; Sakane, Hideo et al.	整形外科	The impact of bDMARDs on postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis: A systematic review and meta-analysis	MEDICINE.2023 NOV;102	Review
5	Takasawa, Eiji; Iizuka, Yoichi; Takakura, Kenta et al.	整形外科	Radiographic Predictors of Subaxial Subluxation After Atlantoaxial Fusion	CLINICAL SPINE SURGERY.2023 DEC;36: E524-E529	Original Article
6	Shimizu, Tatsuya; Aihara, Masanori; Yamaguchi, Rei et al.	脳神経外科	Impact of craniotomy area on improvement of cerebral blood flow in combined revascularization surgery for moyamoya disease	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES.2023 JUN;32	Original Article
7	Tsuneoka, Haruka; Tosaka, Masahiko; Yamaguchi, Rei et al.	脳神経外科	The Significance of the Intercarotid Distances for Transsphenoidal Pituitary Surgery: A Magnetic Resonance Imaging Study	WORLD NEUROSURGERY.2023 JUL;175: E704-E712	Original Article
8	Nakata, Satoshi; Arai, Yasuhito; Fukuoka, Kohei; et al.	脳神経外科	Pediatric diffuse glioma with EP300::BCOR fusion manifesting as low-grade epilepsy-associated neuroepithelial tumor: a case presentation	BRAIN TUMOR PATHOLOGY.2024 JAN;41: 35-39	Original Article
9	Kenjiro Ogushi, Takehiko Yokobori, Sumihito Nobusawa, et al.	小児外科分野	High Tumoral STMN1 Expression Is Associated with Malignant Potential and Poor Prognosis in Patients with Neuroblastoma	Cancers (Basel). 2023 Sep;15:4482-96.	Original Article
10	Matsumoto, Hidetaka; Hoshino, Junki; Nakamura, Kosuke; et al.	眼科	Short-term outcomes of intravitreal faricimab for treatment-naïve neovascular age-related macular degeneration	GRAEFS ARCHIVE FOR CLINICAL AND EXPERIMENTAL OPHTHALMOLOGY.2023 OCT;261: 2945-2952	Original Article
11	Matsumoto, Hidetaka; Hoshino, Junki; Nakamura, Kosuke; et al.	眼科	Attenuation of irradiated choroid and its regional vortex veins in central serous chorioretinopathy after photodynamic therapy	SCIENTIFIC REPORTS.2023 NOV;13	Original Article

12	Matsumoto, Hidetaka; Hoshino, Junki; Nakamura, Kosuke; et al.	眼科	One-year results of treat-and-extend regimen with intravitreal faricimab for treatment-naïve neovascular age-related macular degeneration	JAPANESE JOURNAL OF OPHTHALMOLOGY.2024 MAR;68: 83-90	Original Article
13	Mukai R, Tajika Y, Saito K, et al.	眼科	Micro-abnormalities in the retina and choroid induced by anti-CTLA4 treatment.	Sci Rep. 2023 Apr 18;13(1):6309. doi: 10.1038/s41598-023-33582-5.	Original Article
14	Shinohara Y, Akiyama H.	眼科	Relationship Between Neovascularization of the Optic Disc and Diabetic Macular Edema.	Clin Ophthalmol. 2023 Apr 24;17:1203-1205. doi: 10.2147/OPTH.S409554.eCollection 2023.	Original Article
15	Todokoro D, Miyakubo T, Makimura K, et al.	眼科	Fungal Keratitis Caused by Talaromyces coalescens: A Case Report.	Mycopathologia. 2023 Jun;188(3):251-254. doi: 10.1007/s11046-023-00738-w. Epub 2023 May 9.	Case report
16	Matsumoto H, Hoshino J, Nakamura K, et al.	眼科	Quadrant laser photocoagulation trial to ameliorate choroidal congestion in central serous chorioretinopathy.	Jpn J Ophthalmol. 2023 Mar;67(2):156-163. doi: 10.1007/s10384-023-00976-x. Epub 2023 Feb 3.	Original Article
17	Todokoro D, Miyakubo T, Komori A, et al.	眼科	Successful Management of Fungal Keratitis by Alternaria alternata Complicating Mooren's Ulcer.	Case Rep Ophthalmol. 2023 Apr 11;14(1):153-158. doi: 10.1159/000529979. eCollection 2023	Case report
18	Saito K, Uchida Y, Tokui S, et al.	眼科	A case of Elschnig's spots observed using optical coherence tomography-angiography after stenting for internal carotid artery dissection.	Retin Cases Brief Rep. 2023 Sep 19. doi: 10.1097/ICB.0000000000001496. Online ahead of print.	Case report
19	Miyakubo T, Mukai R, Matsumoto H, et al.	眼科	Comparison of the 2-Year Results of Photodynamic Therapy with Aflibercept and Aflibercept Monotherapy for Polypoidal Choroidal Vasculopathy.	Clin Ophthalmol. 2023 Feb 11;17:571-577. doi: 10.2147/OPTH.S386222. eCollection 2023.	Original Article
20	Matsumoto H, Hoshino J, Nakamura K, et al.	眼科	Two-year outcomes of treat-and-extend regimen with intravitreal brolucizumab for treatment-naïve neovascular age-related macular degeneration with type 1 macular neovascularization.	Sci Rep. 2023 Feb 24;13(1):3249. doi: 10.1038/s41598-023-30146-5.	Original Article
21	Nitta K, Akiyama H.	眼科	A New Technique Using a 4-0 Nylon Thread as a Guide for Easy and Precise Tube Insertion of Ahmed Glaucoma Valve Implant Into Ciliary Sulcus.	Cureus. 2023 Feb 11;15(2):e34854. doi: 10.7759/cureus.34854. eCollection 2023 Feb.	Case report
22	Fukushima, Kazunori; Kambe, Masahiko; Aramaki, Yuto et al.	救急科	Evaluation of injury threshold from the number of rib fracture for predicting pulmonary injuries in blunt chest trauma	Heliyon. 2023 Apr ;9(4):e15278	Original Article
23	Yusuke Sawada, Yuta Isshiki, Yumi Ichikawa et al.	救急医学分野	The Significance of the Treatment for Elderly Severe Trauma Patients Who Required Intensive Care	Cureus. 2023 May ;15(5):e39110	Original Article
24	Kiyohiro Oshima, Yusuke Sawada, Yuta Isshiki et al.	救急医学分野	Clinical Experience of Use of Kampo Medicine Shakuyakuzoto for Muscle Spasms Caused by Tetanus	Cureus. 2023 Jun ;15(6):e40612	Original Article

25	Kiyohiro Oshima, Yusuke Sawada, Yuta Isshiki et al.	救急医学分野	The Association Between Ventricular Fibrillation and Serum Catecholamine Levels	Cureus. 2023 Aug;15(8):e43252.	Original Article
26	Sunaga, Noriaki; Miura, Yosuke; Sakurai, Reiko; et al.	呼吸器・アレルギー内科	Sustained antitumor response to lenvatinib with weekend-off and alternate-day administration in chemotherapy-refractory thymic carcinoma: a case report	ANTI-CANCER DRUGS.2023 APR;34: 605-608	Original Article
27	Sunaga, Noriaki; Kaira, Kyoichi; Shimizu, Kimihiro; et al.	呼吸器・アレルギー内科	The oncogenic role of LGR6 overexpression induced by aberrant Wnt/β-catenin signaling in lung cancer	THORACIC CANCER.2024 JAN;15: 131-141	Original Article
28	Sunaga, Noriaki; Miura, Yosuke; Masuda, Tomomi; et al.	呼吸器・アレルギー内科	Role of Epiregulin in Lung Tumorigenesis and Therapeutic Resistance	CANCERS.2024 FEB;16	Review
29	Natsuko Kawatani, Toshiki Yajima, Kimihiro Shimizu, et al.	呼吸器外科	Risk factors for late-onset pulmonary fistula after pulmonary segmentectomy	JOURNAL OF THORACIC DISEASE.2023 MAR;15: 1009-1017	Original Article
30	Seshiru Nakazawa, Kimihiro Shimizu, Tomohiro Yazawa et al.	呼吸器外科	Clinicopathological features and surgical outcomes of lobectomy combined with segmentectomy: a cohort study	JOURNAL OF THORACIC DISEASE.2023 MAR;15: 1075-1085	Original Article
31	Yukino Saito, Tomohiro Yazawa, Toshiteru Nagashima, et al.	呼吸器外科	Autoimmune alopecia areata due to thymoma without myasthenia gravis: a case report	Surg Case Rep.2023 MAY;9: 68	Case report
32	Seshiru Nakazawa, Toshiteru Nagashima, Natsuko Kawatani, et al.	呼吸器外科	Anatomy of the lung revisited by 3D-CT imaging	Video Assist Thorac Surg 2023 Jun 30:8:17.	Original Article
33	Yazawa, Tomohiro; Igai, Hitoshi; Kamiyoshihara, Mitsuhiro; et al.	呼吸器外科	Right basal bronchial fistula due to amebic infection: a case report	BMC PULMONARY MEDICINE.2023 APR;23	Original Article
34	Yazawa, Tomohiro; Igai, Hitoshi; Nagashima, Toshiteru; et al.	呼吸器外科	How to manage bleeding and air leaks in thoracic surgery	JOURNAL OF THORACIC DISEASE.2023 SEP;15: 4564-4566	Others
35	Ohtaki, Yoichi; Nagashima, Toshiteru; Okano, Naoko; et al.	呼吸器外科	Prognosis of non-small cell lung cancer with postoperative regional lymph node recurrence	THORACIC CANCER.2024 APR;15: 859-866	Original Article
36	Iwase, A, Hasegawa, Y, Tsukui, Y, et al.	産科婦人科	Anti-Müllerian hormone beyond an ovarian reserve marker: the relationship with the physiology and pathology in the life-long follicle development	FRONTIERS IN ENDOCRINOLOGY.2023 NOV;14	Review
37	Iwase A, Asada, Y, Sugishita Y, et al.	産科婦人科	Anti-Müllerian hormone for screening, diagnosis, evaluation, and prediction: A systematic review and expert opinions	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Jan; 50: 15-39	Review

38	Tanaka A, Higeta D, Arai S, et al.	産科婦人科	Single coronary artery diagnosed in the perinatal period: A case report.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2023 Jul;62(4):562-565	Case report
39	Kobayashi M, Nakamura O, Kitahara Y, et al.	産科婦人科	Serum leucine-rich $\alpha$ 2-glycoprotein as a possible marker for inflammatory status in endometriosis.	Reprod Med Biol. 2023 Jan-Dec; 22(1):e12536	Original Article
40	Higeta D, Kitahara Y, Tanaka A, et al	産科婦人科	Cervical angle as a possible predictor of abnormal placental position in women with endometriosis.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Apr;50(4):580-586.	Original Article
41	Tamura K, Konishi Y, Tatsuishi W, et al.	循環器外科	Reversed L-shaped incision for resection of a large azygos vein aneurysm: a case report	Surg case rep. 2023;9: 83	Case report
42	Tatsuishi W, Shibuya K, Konishi Y, et al.	循環器外科	Impact of accessory renal artery embolization on renal deterioration under endovascular aortic repair.	Vasc Endovascular Surg. 2024;58:308-315	Original Article
43	Naito A, Obokata M, Kagami K, et al.	循環器内科	Contributions of anemia to exercise intolerance in heart failure with preserved ejection fraction-An exercise stress echocardiographic study.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2023 Aug 20;48:101255.	Original Article
44	Yuasa N, Obokata M, Harada T, et al.	循環器内科	Characterization and prognostic importance of chronotropic incompetence in heart failure with preserved ejection fraction.	J Cardiol. 2024 Feb;83(2):113-120	Original Article
45	Saito Y, Obokata M, Harada T, et al.	循環器内科	Prognostic benefit of early diagnosis with exercise stress testing in heart failure with preserved ejection fraction	Eur J Prev Cardiol. 2023 Jul 12;30(9):902-911.	Original Article
46	Saito Y, Obokata M, Harada T, et al.	循環器内科	Disproportionate exercise-induced pulmonary hypertension in relation to cardiac output in heart failure with preserved ejection fraction: a non-invasive echocardiographic study	Eur J Heart Fail. 2023 Jun;25(6):792-802.	Original Article
47	Harada T, Obokata M, Kagami K, et al.	循環器内科	Utility of E/e' Ratio During Low-Level Exercise to Diagnose Heart Failure With Preserved Ejection Fraction	JACC Cardiovasc Imaging. 2023 Feb;16(2):145-155.	Original Article
48	Kagami K, Obokata M, Harada T, et al.	循環器内科	Incremental diagnostic value of post-exercise lung congestion in heart failure with preserved ejection fraction	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2023 Apr 24;24(5):553-561.	Original Article
49	Takizawa D, Harada T, Obokata M, et al.	循環器内科	Pathophysiologic and prognostic importance of cardiac power output reserve in heart failure with preserved ejection fraction	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2024 Jan 29;25(2):220-228.	Original Article
50	Yuasa N, Obokata M, Harada T, et al.	循環器内科	Characterization and prognostic importance of chronotropic incompetence in heart failure with preserved ejection fraction	J Cardiol. 2024 Feb;83(2):113-120.	Original Article

51	Nagasaki T, Amanai S, Ishibashi Y, et al.	循環器内科	Drug-coated balloons for the treatment of stent edge restenosis.	Coron Artery Dis. 2023 Jun 1;34(4):236-243.	Original Article
52	Nagasaki T, Koren O, Patel V, et al	循環器内科	Two-Year Outcomes of Valve-in-Valve Using New-Generation Transcatheter Devices Compared With Redo-SAVR	Am J Cardiol. 2023 Nov 15;207:380-389.	Original Article
53	Nagasaki T, Nakamura M.	循環器内科	Left Atrial Appendage Closure: A Narrative Review.	Cardiol Ther. 2023 Dec;12(4):615-635.	Review
54	Nagasaki T, Patel V, Koren O, et al	循環器内科	TAVR-in-TAVR with a balloon-expandable valve for paravalvular leak.	Front Cardiovasc Med. 2024 Mar 19;11:1374078.	Original Article
55	Sorimachi, Hidemi; Obokata, Masaru; Omote, Kazunori; et al.	循環器内科	Race Differences Of Cardiac Structure, Function And Mortality In Heart Failure Patients With Preserved Ejection Fraction	JOURNAL OF CARDIAC FAILURE.2024 JAN;30: 180-180	Others
56	Ishii, Hideki	循環器内科	Should Pleiotropic Effects of Antiplatelet Agents Be Considered for Acute Coronary Syndrome?	AMERICAN JOURNAL OF CARDIOLOGY.2023 AUG;201: 386-387	Others
57	Ishii, Hideki	循環器内科	Acute Coronary Syndrome and Cancer — Cardio-Oncology in the Super Aged Society in Japan —	CIRCULATION JOURNAL.2024 FEB;88: 215-216	Others
58	Hara Y, Shiba N, Yoshida K, et al.	小児科	TP53 and RB1 alterations characterize poor prognostic subgroups in pediatric acute myeloid leukemia.	Genes Chromosomes Cancer. 2023 Jul;62:412-422.	Original Article
59	Takahashi S, Ishige T, Takizawa T.	小児科	Methemoglobinemia Outbreak in a Neonatal ICU and Maternity Ward.	N Engl J Med. 2023 Dec;389:2395-2397.	Case report
60	Minemura R, Sugitate R, Shimizu M, et al.	小児科	Trichorhinophalangeal syndrome type I associated with imperforate hymen.	Pediatr Int. 2023 Oct (オンライン)	Case report
61	Tabei Y, Ohtsu Y, Shimada M, et al.	小児科	FGF23-related hypophosphatemic rickets preceding the onset of systemic lupus erythematosus: A juvenile case.	Clin Case Rep. 2024 Jan (オンライン)	Case report
62	Yamato, Genki; Muramatsu, Hideki; Shimada, Akira; et al.	小児科	CYTOKINE PROFILING IN 128 PATIENTS WITH TRANSIENT ABNORMAL MYELOPOIESIS: JPLSG TAM-10 STUDY	PEDIATRIC BLOOD & CANCER.2024 JAN;71: S19-S19	Others
63	Shiraishi T, Ogawa H, Yamaguchi A, et al.	消化管外科	Two-team Total Mesorectal Excision and Lateral Pelvic Lymph Node Dissection Using Transanal Approach for Rectal Cancer: A Retrospective Study	ANTICANCER RESEARCH. 2023 JUL; 43: 3311-9	Original Article

64	Shiraishi T, Ogawa H, Naomi S, et al.	消化管外科	Surgical Techniques and Stoma-related Complications Associated With Emergency Stoma Creation	ANTICANCER RESEARCH. 2023 SEP; 43: 4189-95	Original Article
65	Sano A, Sohda M, Hosoi N, et al.	消化管外科	Importance of Progression-free Survival in Second-line Chemotherapy in Patients With Advanced or Recurrent Gastric Cancer	ANTICANCER RESEARCH. 2023 NOV; 43: 5205-13	Original Article
66	Ogawa H, Shiraishi T, Okada T, et al.	消化管外科	Adjuvant Chemotherapy With UFT/LV Versus UFT/LV Plus PSK in Stage II/III Colorectal Cancer	ANTICANCER RESEARCH. 2024 FEB; 44: 805-14	Original Article
67	Sano A, Sohda M, Hosoi N, et al.	消化管外科	A Novel Method for Thoracoscopic Overlap Esophagogastric Reconstruction With Pleural Closure following Minimally Invasive Ivor-Lewis Esophagectomy for Esophagogastric Junction Cancer	SURGICAL LAPAROSCOPY ENDOSCOPY & PERCUTANEOUS TECHNIQUES. 2024 FEB; 34: 108-12	Original Article
68	Sohda M, Hara K, Kuriyama K, et al.	消化管外科	Effectiveness of Combination Chemotherapy With Docetaxel, Nedaplatin, and 5-Fluorouracil for Advanced and Recurrent Esophageal Cancer	ANTICANCER RESEARCH. 2024 MAR; 44: 1309-15	Original Article
69	Sohda M, Yokobori T, Kimura A, et al.	消化管外科	Efficacy of chemotherapy for comorbid cancer in patients with simultaneous double cancers: a multicenter study	Surg Today. 2023 Jan; 53: 98-108	Original Article
70	Ozawa N, Yokobori T, Osone K, et al.	消化管外科	MAdCAM-1 targeting strategy can prevent colitic cancer carcinogenesis and progression via suppression of immune cell infiltration and inflammatory signals	Int J Cancer. 2024 Jan; 154: 359-71	Original Article
71	Nakazawa N, Sohda M, Katayama A, et al.	消化管外科	Infiltration of Gastric Cancer Stroma by Tumor-Infiltrating Lymphocytes Correlates with Mechanistic Target of Rapamycin Signaling	Oncology. 2023 Jun; 101: 520-6	Original Article
72	Suzuki K, Shiraishi T, Shioi I, et al.	消化管外科	Sigmoid colon schwannoma difficult to distinguish from peritoneal dissemination 13 years after pancreatic neuroendocrine tumor surgery	Surg Case Rep. 2023 May; 9: 76	Case report
73	Nakazawa N, Sohda M, Tateno K, et al.	消化管外科	Albumin-derived Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Score as a Marker of Nivolumab Treatment Sensitivity in Gastric Cancer: A Multicenter Study	In Vivo. 2023 Mar-Apr; 37: 818-4	Original Article
74	Naito R, Nakazawa N, Zenyoji D, et al.	消化管外科	Retrograde drainage for duodenal stump leakage using ileal decompression tube guided by double-balloon endoscopy: a novel case report	Surg Case Rep. 2024 Feb; 10: 44	Case report
75	Naito R, Shiraishi T, Hosoi N, et al.	消化管外科	Squamous cell carcinoma of the anus successfully treated with multidisciplinary therapy for metachronous metastatic and local recurrences after DCF chemotherapy: a case report	Surg Case Rep. 2024 Mar; 10: 71	Case report
76	Hashimoto Y, Kuribayashi S, Sato K, et al	消化器・肝臓内科	Validation of red dichromatic imaging score (RDI score) to evaluate the severity of ulcerative colitis.	Surg Endosc. 2023 May; 37(5): 3627-3633	Original Article

77	Hashimoto Y, Kurabayashi S, Itoi Y, et al	消化器・肝臓内科	Safety of full bowel preparation and colonoscopy in elderly patients with ulcerative colitis: A real-world multicenter retrospective cohort study.	DEN Open. 2023 Jul; 4(1): e275	Original Article
78	Hosaka H, Kurabayashi S, Kawamura O, et al	消化器・肝臓内科	The relationship between manometric subtype and symptom details in achalasia.	Esophagus. 2023 Oct; 20(4): 761-768	Original Article
79	Tanaka H, Uraoka T, Kobayashi N, et al.	消化器・肝臓内科	Short-term and long-term outcomes of submucosal dissection for residual or recurrent colorectal tumors after endoscopic resection: Analysis of a multicenter prospective study.	Digestive Endoscopy 2023 Dec Online	Original Article
80	Kurabayashi S, Nakamura F, Motegi SI, et al.	光学医療診療部	Prevalence and risk factors for medication-refractory reflux esophagitis in patients with systemic sclerosis in Japan.	J Gastroenterol. 2024 Mar; 59(3): 179-186.	Original Article
81	Kasuga K, Sato K, Nakata K, et al.	消化器・肝臓内科	A novel submucosal injection material comprising a fully synthetic and self-assembling peptide solution for endoscopic resection of large colorectal laterally spreading tumors.	Endoscopy. 2023 Dec; 55(S01): E621-E622	Others
82	Kasuga K, Tanaka H, Uraoka T.	消化器・肝臓内科	Endoscopic tissue shielding with polyglycolic acid sheets, self-assembling peptide, and endoclips for preventing delayed adverse events after endoscopic submucosal dissection.	Dig Endosc. 2023 Jul; 35(5): e90-e92.	Case Report
83	Yukino Miura, Yuichi Takei, Koji Sato, et al.	神経精神医学教室	Community Mental Health Services in Japan: Factors Affecting Visit Frequency	THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL,2023年11月	Original Article
84	Fujihara, Kazuyuki	精神科神経科	Beyond the $\gamma$ -aminobutyric acid hypothesis of schizophrenia	FRONTIERS IN CELLULAR NEUROSCIENCE.2023 APR;17	Review
85	Kurozumi S, Seki N, Narusawa E, et al.	乳腺・内分泌外科	Identification of MicroRNAs Associated with Histological Grade in Early-Stage Invasive Breast Cancer	Int J Mol Sci. 2023 Dec 19;25(1):35.	Original Article
86	Honda CK, Kurozumi S, Fujii T, et al.	乳腺・内分泌外科	Cancer-associated fibroblast spatial heterogeneity and EMILIN1 expression in the tumor microenvironment modulate TGF- $\beta$ activity and CD8+ T-cell infiltration in breast cancer	Theranostics. 2024 Feb 24;14(5):1873-1885.	Original Article
87	Furuta M, Sato M, Kasahara H, et al.	脳神経内科	Clinical, radiological, and molecular analyses of neuronal intranuclear inclusion disease with polyglycine inclusions.	J Neurol Sci. 2023; 448: 120618.	Original Article
88	Nakamura T, Kawarabayashi T, Nakahata N, et al.	脳神経内科	Annual stability of the plasma Ass40/42 ratio and associated factors	ANNALS OF CLINICAL AND TRANSLATIONAL NEUROLOGY 2023 JUN;10: 879-891	Original Article
89	Nakamura T, Kawarabayashi T, Ueda T, et al.	脳神経内科	Plasma ApoE4 Levels Are Lower than ApoE2 and ApoE3 Levels, and Not Associated with Plasma A $\beta$ 40/42 Ratio as a Biomarker of Amyloid- $\beta$ Amyloidosis in Alzheimer's Disease.	Alzheimers Dis. 2023; 93(1): 333-348.	Original Article

90	Tokue H, Sano R, Takahashi Y, et al.	放射線部	Hypothermic death resulting from extreme freezing with characteristic postmortem computed tomography findings: A case report and review of the literature.	Radiol Case Rep. 2023 Jan 31;18(4):1423-1426.	Case report
91	Tokue, Hiroyuki; Tokue, Azusa; Tsushima, Yoshito	放射線部	rSO2 Measurement Using NIRS for Lower-Limb Blood Flow Monitoring and Estimation of Safe Balloon Occlusion/Deflation Time in Patients with PAS Who Underwent PBOA during CS	MEDICINA-LITHUANIA.2023 JUN; 59	Original Article
92	Tokue, Hiroyuki; Ebara, Masashi; Yokota, Takayuki; et al.	放射線部	MRI-Based Risk Factors for Adverse Maternal Outcomes in Prophylactic Aortic Balloon Occlusion for Placenta Accreta Spectrum and Placenta Previa	DIAGNOSTICS.2024 FEB;14	Original Article
93	Kumasaka, Soma; Kubota, Jun; Kumasaka, Yuka; et al.	放射線部	A novel use of CT attenuation value: increased bone marrow density in patients with acute myeloid leukemia.	Acta Radiol. 2023 Apr;64(4):1573-1578.	Original Article
94	Kumasaka S, Seki Y, Takayama H, et al.	放射線部	Predictive value of prostate calcification for future cancer occurrence: a retrospective long-term follow-up cohort study.	Br J Radiol. 2023 Jul;96(1147):20221110.	Original Article
95	Fukushima Y, Taketomi-Takahashi A, Suto T, et al.	応用画像医学	Clinical features and risk factors of iodinated contrast media (ICM)-induced anaphylaxis.	Eur J Radiol. 2023 Jul;164:110880.	Original Article
96	Fukushima Y, Suto T, Hirasawa H, et al.	応用画像医学	Contrast-induced anaphylaxis: does it occur in the medical environment and is it being responded to appropriately?	Jpn J Radiol. 2023 Sep;41(9):1022-1028.	Original Article
97	Horiuchi T, Takazawa T.	麻酔・集中治療科	Perioperative anaphylaxis with no identifiable cause.	JA Clin Rep. 2024 Jan 23;10(1):3. (オンライン)	Case report
98	Kadoi Y, Ohta J, Sasaki Y, et al.	手術部	Adequate oxygenation state maintained during electroconvulsive therapy in non-obese patients using oxygen reserve index –a pilot study–	Case Reports in Anesthesiology 2023;Nov.7807693 (オンライン)	Case report
99	Kadoi Y, Sano M, Nakano T, et al.	手術部	Automatic change in pacemaker mode during electroconvulsive therapy in a patient with an implantable cardiac pacemaker.	J ECT 2023 Sep;39:9-10	Letter
100	Haraguchi-Suzuki K, Aso C, Nomura M, et al.	集中治療部	Anesthetic management of a patient with achalasia, a disease with a considerable risk for aspiration under anesthesia.	JA Clinical Reports 2023 Sep; 9, 59, (オンライン)	Case report
101	Takazawa T, Horiuchi T, Nagumo K, et al.	集中治療部	The Japanese Epidemiologic Study for Perioperative Anaphylaxis, a prospective nationwide study: allergen exposure, epidemiology, and diagnosis of anaphylaxis during general anaesthesia.	Br J Anaesth. 2023 Jul;131(1):159-169.	Original Article
102	Horiuchi T, Takazawa T, Haraguchi T, et al.	麻酔・集中治療科	Investigating the optimal diagnostic value of histamine for diagnosing perioperative hypersensitivity: a prospective, observational study.	J Anesth. 2023 Aug;37(4):645-649.	Original Article

103	Suto, Takashi; Kato, Daiki; Koibuchi, Ikuya; et al.	麻醉・集中治療科	Rat model of attention-deficit hyperactivity disorder exhibits delayed recovery from acute incisional pain due to impaired descending noradrenergic inhibition	SCIENTIFIC REPORTS.2023 Apr 4;13(1):5526.	Original Article
104	Yamada, Eijiro; Nakajima, Yasuyo; Horiguchi, Kazuhiko; et al.	内分泌糖尿病内科	Assessment of factors associated with improved glycemic control after switching from intermittently scanned to real-time continuous glucose monitoring in Japanese patients with type 1 diabetes	ENDOCRINE JOURNAL.2023 ;70: 1187-1193	Original Article
105	Handa, Hiroshi; Ishida, Tadao; Ozaki, Shuji; et al.	血液内科学分野	Treatment pattern and clinical outcomes in multiple myeloma patients in Japan using the Medical Data Vision claims database	PLOS ONE.2023 APR;18	Original Article
106	Handa, Hiroshi; Ishida, Tadao; Ozaki, Shuji; et al.	血液内科学分野	Applying Artificial Intelligence Machine Learning to Discover Factors That Shorten Duration of Treatment in Patients with Multiple Myeloma Using Real-World Patient-Level Longitudinal Data from Medical Data Vision Database	BLOOD.2023 NOV;142	Others
107	Kubo, Nobuteru; Suefuji, Hiroaki; Nakajima, Mio; et al.	腫瘍放射線学分野	Clinical results of carbon ion radiotherapy for inoperable stage I non-small cell lung cancer: A Japanese national registry study (J-CROS-LUNG)	RADIOTHERAPY AND ONCOLOGY.2023 JUN;183	Original Article
108	Okamoto, Masahiko; Shiba, Shintaro; Kobayashi, Daijiro; et al.	腫瘍放射線学分野	Carbon-Ion Radiotherapy Combined with Concurrent Chemotherapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer: A Retrospective Case Series Analysis	CANCERS.2023 MAY;15	Original Article
109	Kubo, Nobuteru; Suefuji, Hiroaki; Nakajima, Mio; et al.	腫瘍放射線学分野	Five-Year Survival Outcomes After Carbon-Ion Radiotherapy for Operable Stage I NSCLC: A Japanese National Registry Study (J-CROS-LUNG)	JOURNAL OF THORACIC ONCOLOGY.2024 MAR;19: 491-499	Original Article
110	Kubo, Nobuteru	腫瘍放射線学分野	Response to Letter to the Editor	JOURNAL OF THORACIC ONCOLOGY.2024 MAR;19: 508-508	Letter
111	Ishii, Norihiro; Harimoto, Norifumi; Seki, Takaomi; et al.	肝胆脾外科学分野	Autotaxin is a novel surrogate marker for oxaliplatin-related sinusoidal obstruction syndrome in patients with colorectal liver metastasis	HEPATOLOGY RESEARCH.2023 AUG;53: 761-770	Original Article
112	Tsukagoshi, Mariko; Watanabe, Akira; Araki, Kenichiro; et al.	肝胆脾外科	Usefulness of serum creatinine and cystatin C ratio as a screening tool for predicting prognosis in patients with pancreatic cancer	ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY.2023 SEP;7: 784-792	Original Article
113	Araki, Kenichiro; Harimoto, Norifumi; Watanabe, Akira; et al.	肝胆脾外科	Laparoscopic Liver Resection Procedure Attenuates Organ-space Surgical Site Infection Compared With Open Procedure: A Propensity Score-matched Analysis	ANTICANCER RESEARCH.2023 MAY;43: 2273-2280	Original Article
114	Harimoto, Norifumi; Tsukagoshi, Mariko; Okuyama, Takayuki; et al.	肝胆脾外科	Significance of malnutrition defined with Global Leadership Initiative on Malnutrition criteria in patients with hepatocellular carcinoma after hepatic resection	HEPATOLOGY RESEARCH.2023 DEC;53: 1235-1248	Original Article

115	Hagiwara, Kei; Watanabe, Akira; Harimoto, Norifumi; et al.	肝胆胰外科	Liver regeneration after hepatectomy is significantly suppressed in a muscular atrophy mouse model	JOURNAL OF HEPATO-BILIARY-PANCREATIC SCIENCES.2024 MAR;31: 152-161	Original Article
116	Ishii, Norihiro; Harimoto, Norifumi; Seki, Takamomi; et al.	肝胆胰外科学分野	The impact of lymphangiography on chyle leakage treatment duration after pancreatic surgery	SURGERY TODAY.2023 DEC;	Original Article
117	Harimoto, Norifumi; Igarashi, Takamichi; Okuyama, Takayuki; et al.	肝胆胰外科	Preoperative zinc status predicts the occurrence and healing time of pancreatic fistula after distal pancreatectomy	WORLD JOURNAL OF SURGERY.2024 JAN;48: 186-192	Original Article
118	Harimoto, Norifumi; Tsukagoshi, Mariko; Seki, Takaomi; et al.	肝胆胰外科	Predictors for early recurrence beyond up-to-7 or distant metastasis after hepatocellular carcinoma resection: proposal for borderline resectable HCC	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY.2024 FEB;29: 195-204	Original Article
119	Araki, Kenichiro; Watanabe, Akira; Harimoto, Norifumi; et al.	肝胆胰外科	Advantages of laparoscopic segmentectomy of the liver using ICG fluorescent navigation by the negative staining method: A comparison with open procedure	ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY.2024 JUL;8: 691-700	Original Article
120	Miyasaka, Yuhei; Yoshimoto, Yuya; Ando, Ken; et al.	医学部門	CD8-positive Tumor-infiltrating Lymphocytes and Prognosis in Radiotherapy for Uterine Cervical Squamous Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH.2023 MAY;43: 2077-2084	Original Article
121	Musha, Atsushi; Ohno, Tatsuya	医学部門	Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma Invading the Internal Jugular Vein	PRACTICAL RADIATION ONCOLOGY.2023 JUL;13: 265-266	Others
122	Harada, Tomonari; Kagami, Kazuki; Shina, Takayuki; et al.	検査部	Diagnostic value of reduced left atrial compliance during ergometry exercise in heart failure with preserved ejection fraction	EUROPEAN JOURNAL OF HEART FAILURE.2023 APR	Original Article
123	Tsunekawa, Katsuhiro; Shoho, Yoshifumi; Ushiki, Kazumi; et al.	検査部	Assessment of exercise-induced stress via automated measurement of salivary cortisol concentrations and the testosterone-to-cortisol ratio: a preliminary study	SCIENTIFIC REPORTS.2023 SEP;13	Original Article
124	Seki, Mai; Sano, Takaaki; Ogawa, Masaru; et al.	病理診断学分野	Relationship between histopathological therapeutic effect and prognosis in oral cancer patients after preoperative S-1 chemotherapy followed by surgery	CLINICAL ORAL INVESTIGATIONS.2023 AUG;27: 4817-4826	Original Article
125	Seki, Mai; Sano, Takaaki; Saito, Emi; et al.	病理診断学分野	Tertiary lymphoid structures in tongue cancer: Association with clinicopathological parameters, preoperative S-1 chemotherapy response, and prognosis	JOURNAL OF ORAL PATHOLOGY & MEDICINE.2024 FEB;53: 124-132	Original Article
126	Ohtsu, Akira; Arai, Seiji; Fujizuka, Yuji; et al.	泌尿器科学分野	Retroperitoneal urothelial carcinoma arising after bladder diverticulectomy: a case report	BMC UROLOGY.2023 MAY;23	Original Article
127	Miyazawa, Yoshiyuki; Hori, Keisuke; Tsuji, Yusuke; et al.	泌尿器科学分野	The utility of the [-2]pro-prostate-specific antigen level as a prognostic marker in patients with castration-resistant prostate cancer treated with enzalutamide	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY.2023 OCT;30: 839-846	Original Article

128	Ohtsu, Akira; Arai, Seiji; Fujizuka, Yuji; et al.	泌尿器科学分野	Predictive models of long-term survival outcomes following radical cystectomy	CANCER MEDICINE.2023 DEC;12: 21118-21128	Original Article
129	Miyazawa, Yoshiyuki; Sekine, Yoshitaka; Oka, Daisuke; et al.	泌尿器科学分野	Simvastatin Induces Autophagy and Inhibits Proliferation in Prostate Cancer Cells	ANTICANCER RESEARCH.2023 DEC;43: 5377-5385	Original Article
130	Arai, Seiji	泌尿器科学分野	Editorial Comment on Epigenetic alterations in urothelial bladder cancer associated with disease outcomes	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY.2024 MAR;31: 229-230	Others
131	Arai, Seiji; Gao, Yanfei; Yu, Ziyang; et al.	泌尿器科学分野	A carboxy-terminal ubiquitylation site regulates androgen receptor activity	COMMUNICATIONS BIOLOGY.2024 JAN;7	Original Article
132	Miyazawa, Yoshiyuki; Koike, Hidekazu; Oka, Daisuke; et al.	泌尿器科学分野	Comparison of sexual function after robot-assisted radical prostatectomy and carbon-ion radiotherapy for Japanese prostate cancer patients using propensity score matching	BMC CANCER.2024 MAR;24	Original Article
133	Uchiyama, Akihiko; Kosaka, Keiji; Ishikawa, Mai; et al.	皮膚科	Real-world effectiveness and safety of abrocitinib in 12 Japanese patients with atopic dermatitis and transcriptome analysis with peripheral blood	JOURNAL OF DERMATOLOGY.2024 JUN;51: 849-853	Original Article
134	Higeta, Daisuke; Kitahara, Yoshikazu; Tanaka, Ayuko; et al.	周産母子センター	Cervical angle as a possible predictor of abnormal placental position in women with endometriosis	JOURNAL OF OBSTETRICS AND GYNAECOLOGY RESEARCH.2024 APR;50: 580-586	Original Article
135	Kato, Toshimitsu; Yanagisawa, Kunio; Okada, Kenya; et al.	感染制御部	A case of cholangiocarcinoma complicating liver abscess-related tumor thrombus extending via the inferior vena cava to the right ventricle and visualized on transthoracic echocardiography	JOURNAL OF MEDICAL ULTRASONICS.2024 JAN;51: 141-142	Others

計 135件

当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数：該当ページ」の形式で記載すること

記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別	件
1						
2						
3						
～						

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

## (1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の主な内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>○病院長の責務、臨床研究審査委員会の業務内容、臨床研究の申請・依頼等の受付方法、責任医師及び分担医師等の業務内容、他の研究機関からIRB審査依頼があった場合の対応等</li> </ul> </li> </ul>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
 2 前年度の実績を記載すること。

## (2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>規定の主な内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>○「国立大学法人群馬大学利益相反マネジメント規程」            利益相反マネジメント対象の範囲、利益相反マネジメントの対象、利益相反マネジメントのための調査、利益相反申告書等の保存、学外への情報公開、利益相反管理昭和地区部会の設置等</li> <li>○「群馬大学利益相反管理昭和地区部会内規」            部会の審議事項、部会の組織、部会長の選出、研究科長等への報告等</li> </ul> </li> </ul>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・研修の主な内容	
○ 群馬大学医学部附属病院・昭和地区キャンパス「臨床試験に関する講習会」 治験・臨床研究に関して、大学病院臨床試験アライアンスと共に、「臨床試験に関する講習会」を群馬大学医学部附属病院内で6回開催した。倫理指針で定める受講を研究者及び研究を実施する際の事務に従事する者、研究者の補助業務に当たる者に義務付けている。	
〈各回の開催日時、演題、参加人数等〉	
第1回 令和5年5月12日（金）15時30分～16時30分 参加者数 319名 「研究倫理の原則と倫理審査について」 群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター 教授 大山善昭先生	
第2回 令和5年5月12日（金）18時00分～19時00分 参加者数 192名 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について」 群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター 教授 大山善昭先生	
第3回 令和5年5月15日（月）15時30分～16時30分 参加者数 170名 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について」 群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター 教授 大山善昭先生	
第4回 令和5年5月15日（月）18時～19時 参加者数 164名 「研究倫理の原則と倫理審査について」 群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター 教授 大山善昭先生	
第5回 令和5年10月31日（火）17時00分～18時00分 参加者数 150名 「アカデミアにおける医療機器開発の現状と今後の展望～患者市民参画～」 広島大学トランスレーショナルリサーチセンター 教授 杉山大介先生	
第6回 令和6年2月21日（水）17時～18時 参加者数 129名 「バイオデザインと医療機器開発」 システムズ株式会社 テクノロジーイノベーション本部 データサイエンスセンター 二松史哉先生 中央研究所 研究企画グループ 岡祐馬先生	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

当院では、医学部附属病院の優れた教育機能を十分に活用し、充実した関連病院との連携のもとで、次代を担う実力ある専門医を養成している。具体的には、初期臨床研修で磨いた診療能力をさらに高め、各専門領域の学会認定専門医の取得を目指すため、後期専門研修プログラムを運用している。

当院の後期専門研修プログラム・コース一覧は、下記のとおり。

### 【令和5年度 群馬大学医学部附属病院 後期専門研修プログラム一覧】

プログラム 運営診療科	プログラム 名	受 入 人 数	プログラム 責任者名	各プログラムで 取得を目指す 基本領域専門医 資格	基本領域専門医資格取得後に可能な サブスペシャルティ研修 (資格名/学会等名)	サブスペ シャルティ 研修 担当医名			
循環器内科	群馬大学内 科専門研修 プログラム	30	廣村 桂樹	内科専門医/ 日本内科学会	循環器専門医/日本循環器学会	石井 秀樹			
					不整脈専門医/日本不整脈学会	金古 善明			
					超音波専門医/日本超音波医学会	高間 典明			
					核医学専門医/日本核医学会	小板橋 紀通			
					心血管インターベンション認定医・専門医/日本心血 管インターベンション治療学会	小保方 優 田村 峻太郎 反町 秀美			
	呼吸器・アレ ルギー内科				呼吸器専門医/日本呼吸器学会	前野 敏孝			
					アレルギー専門医/日本アレルギー学会	砂長 則明			
					感染症専門医/日本感染症学会	古賀 康彦			
					気管支鏡専門医/日本呼吸器内視鏡学会	矢富 正清 鶴巻 嘉朗			
					がん薬物療法専門医/日本臨床腫瘍学会	三浦 陽介			
消化器・肝臓 内科	群馬大学内 科専門研修 プログラム				消化器病専門医/日本消化器病学会	浦岡 俊夫			
					消化器内視鏡専門医/日本消化器内視鏡学会	栗林 志行			
					胃腸専門医/日本消化管学会	田中 寛人 保坂 浩子			
	内分泌糖尿 病内科				肝臓専門医/日本肝臓学会	佐藤 賢			
					消化器病専門医/日本消化器病学会	山崎 勇一			
					消化器内視鏡専門医/消化器内視鏡学会	戸島 洋貴			
腎臓・リウマ チ内科	内分泌糖尿 病内科				内分泌代謝科専門医/日本内分泌学会	山田 正信 山田英二郎			
					糖尿病専門医/日本糖尿病学会	堀口 和彦			
	腎臓・リウマ チ内科				甲状腺専門医/日本甲状腺学会	松本 俊一 吉野 聰 石田 恵美			
					腎臓専門医/日本腎臓学会	廣村 桂樹			
					透析専門医/日本透析医学会	池内 秀和 坂入 徹			

				リウマチ専門医／日本リウマチ学会	浜谷 博子 中里見征央
血液内科				血液専門医／日本血液学会	
				血栓止血学会認定医／日本血栓止血学会	
				がん薬物療法専門医／日本臨床腫瘍学会	半田 寛 小川 孔幸 宮澤 悠里 小林 宣彦
				がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
				輸血細胞治療学会認定医／日本輸血・細胞治療学会	
				造血細胞移植認定医／日本造血細胞移植学会	
				エイズ学会認定医／日本エイズ学会	
脳神経内科				神経内科専門医／日本神経学会	池田 佳生 藤田 行雄 牧岡 幸樹
				認知症専門医／日本認知症学会	
循環器外科				心臓血管外科専門医／心臓血管外科専門医認定機構	阿部 知伸 立石 渉 小西 康信
呼吸器外科				呼吸外科専門医／日本呼吸器外科学会	永島 宗晃 大瀧 容一 河谷菜津子 矢澤 友弘
消化管外科	群馬大学外科専門研修プログラム	24	調 憲	がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
				消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	
				気管食道科専門医／日本気管食道科学会	
				食道科認定医・食道外科専門医／日本食道学会	佐伯 浩司 宗田 真
				内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
				がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	小川 博臣
				臨床腫瘍学会暫定指導医／日本臨床腫瘍学会	酒井 真 佐野 彰彦
				大腸肛門病専門医・指導医／日本大腸肛門病学会	大曾根勝也
				消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	岡田 拓久
				消化器がん専門医・指導医／日本消化器病学会	白石 卓也
				胃腸科認定医・専門医・指導医／日本消化管学会	中澤 信博
				消化器内視鏡専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会	
				外科指導医／日本外科学会	
肝胆膵外科				消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	調 憲
				肝胆膵外科高度技能専門医／日本肝胆膵外科学会	播本 憲史
				内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	新木健一郎
				がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	渡辺 亮 塙越真梨子
				消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	萩原 慶

					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	石井 範洋
乳腺・内分泌 外科					肝臓専門医／日本肝臓学会	
					乳腺専門医／日本乳癌学会	藤井 孝明 尾林紗弥香 荻野 美里 中澤 裕子
					内分泌・甲状腺外科専門医／日本内分泌外科学会	
					外科指導医／日本外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
小児外科					小児外科専門医／日本小児外科学会	大竹紗弥香
					小児がん認定外科医／日本小児血液・がん学会	
					小児泌尿器科認定医／日本小児泌尿器科学会	
					日本周産期・新生児医学会認定外科医／日本周産期・新生児医学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					消化器病専門医／日本消化器病学会	
					胃腸科専門医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
泌尿器科	群馬大学泌 尿器科専門 研修プログ ラム	7	鈴木 和浩	泌尿器科専門医 ／ 日本泌尿器科学 会	腎移植認定医／日本臨床腎移植学会	関根 芳岳 野村 昌史 新井 誠二 宮澤 廉行
					泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本泌尿器科学会、日本泌 尿器内視鏡学会	
					生殖医療専門医／日本生殖医学会	
					透析専門医／日本透析医学会	
					内分泌代謝科専門医／日本内分泌学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
整形外科	群馬大学整 形外科専門 研修プログ ラム	11	筑田 博隆	整形外科専門医 ／ 日本整形外科学 会	スポーツ医／日本整形外科学会	設楽 仁 飯塚 陽一 岡部 興一 三枝 徳栄 高澤 英嗣
					脊椎脊髄病医／日本整形外科学会	
					リウマチ専門医／日本リウマチ学会	
					手外科専門医／日本手外科学会	
					脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄病学会	
皮膚科	群馬大学皮 膚科専門研 修プログラ ム	10	茂木精一郎	皮膚科専門医／ 日本皮膚科学会	皮膚悪性腫瘍指導専門医／日本皮膚科学会	茂木精一郎 安田 正人
					皮膚美容科・レーザー指導専門医／日本皮膚科学会	
眼科	群馬大学眼 科専門研修 プログラム	4	秋山 英雄	眼科専門医／ 日本眼科学会	眼科光線力学の療法認定医／眼科 PDT 研究会	秋山 英雄 戸所 大輔 松本 英孝 森本 雅裕
耳鼻咽喉科	群馬大学医 学部附属病 院耳鼻咽喉 科専門研修 プログラム	5	近松 一朗	耳鼻咽喉科専門 医／ 日本耳鼻咽喉科 学会	耳鼻咽喉科指導医／日本耳鼻咽喉科学会	紫野 正人 新國 摂 桑原 幹夫 松山 敏之
					補聴器相談医／日本耳鼻咽喉科学会	
					頭頸部がん専門医／日本頭頸部外科学会	
					気管食道科専門医／日本気管食道科学会	

					アレルギー専門医／日本アレルギー学会	
精神科神経科	精神科専門医研修プログラム	若干名	福田 正人	精神科専門医／日本精神神経学会	精神保健指定医／厚生労働省 精神科専門医指導医／日本精神神経学会 一般病院連携精神医学専門医／日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医指導医／日本総合病院精神医学会 精神保健判定医／(心神喪失者等医療観察法)法令による資格 日本児童青年精神医学会認定医／日本児童青年精神医学会 子どものこころ専門医／子どものこころ専門医機構	藤平 和吉 須田 真史 武井 雄一 小野 樹郎
麻酔・集中治療科	群馬大学医学部附属病院 麻酔科専門研修プログラム	25	麻生 知寿	麻酔科専門医／日本麻酔科学会	集中治療専門医／日本集中治療医学会 ペインクリニック専門医／日本ペインクリニック学会 心臓血管麻酔専門医／日本心臓血管麻酔学会	戸部 賢 荻野 祐一 竹前 彰人
脳神経外科	群馬大学医学部附属病院 脳神経外科専門研修プログラム	8	好本 裕平	脳神経外科専門医／日本脳神経外科学会	脳血管内治療専門医／日本脳神経血管内治療学会 脳卒中専門医／日本脳卒中学会 がん治療認定医／日本がん治療認定医機構、日本脳腫瘍学会 機能的定位脳手術技術認定医／日本定位・機能神経外科学会 救急科専門医／日本救急医学会、日本神経外傷学会 脊髄外科認定医／日本脊髄外科学会 神経内視鏡技術認定医／日本神経内視鏡学会、日本小児神経外科学会	登坂 雅彦 藍原 正憲 清水 立矢 堀口 桂志 本多 文昭 山口 玲 宮城島孝昭 相島 薫 長岐 智仁
小児科	群馬大学医学部附属病院 小児科専門研修プログラム	12	滝沢 琢己	小児科専門医／日本小児科学会	アレルギー専門医／日本アレルギー学会 血液専門医／日本血液学会 がん治療認定医／日本がん治療認定医機構 造血細胞移植認定医／日本造血細胞移植学会 腎臓専門医／日本腎臓病学会 新生児専門医／日本周産期・新生児医学会 小児神経専門医／日本小児神経学会 小児栄養消化器肝臓認定医／日本小児栄養消化器肝臓学会 消化器内視鏡専門医／消化器内視鏡学会 消化器病専門医／日本消化器病学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会	滝沢 琢己 奥野はるな 小林 靖子 井上 貴博 緒方 朋実 羽鳥 麗子 石毛 崇 本島 敏乃
産科婦人科	群馬大学医学部附属病	7	岩瀬 明	産科婦人科専門医／	周産期専門医(母体・胎児専門医)／日本周産期・新生児学会	龜田 高志 平川 隆史

	院 産婦人科専 門研修施設 群専門研修 プログラム			日本産科婦人科 学会	生殖医療専門医／日本生殖医学会 内視鏡外科学会技術認定医／日本内視鏡外科学会 内分泌代謝科(産婦人科)専門医／日本内分泌学会 婦人科腫瘍専門医／日本婦人科腫瘍学会	池田 賢智 北原 慈和 井上 真紀 平石 光 中尾光資郎 日下田大輔 小林 美央 森田 晶人
放射線科	群馬大学医 学部附属病 院		大野 達也	放射線科専門医 ／ 日本医学放射線 学会	放射線治療専門医／日本医学放射線学会、日本放射線 腫瘍学会	河村 英将
核医学科	放射線科専 門研修プロ グラム	12	対馬 義人	放射線科専門医 ／ 日本医学放射線 学会	放射線診断専門医／日本医学放射線学会 核医学専門医／日本核医学会 IVR 専門医／日本 IVR 学会 超音波専門医／日本超音波医学会	樋口 徹也 高橋 綾子 平澤 裕美 徳江 浩之
検査部・感染 制御部	群馬大学臨 床検査専門 研修プログラ ム	2	村上 正巳	臨床検査専門医 ／ 日本臨床検査医 学会	ICD(インフェクションコントロールドクター)／ICD 制度協議会 感染症専門医／日本感染症学会 人間ドック健診専門医／日本人間ドック学会 超音波専門医／日本超音波医学会 臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会 細胞診専門医／日本臨床細胞学会 消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会 臨床神経生理専門医／日本臨床神経生理学会	徳江 豊 木村 孝穂 常川 勝彦 柳澤 邦雄 葭田 明弘 青木 智之 加藤 寿光
集中治療部	群馬大学医 学部附属病 院 集中治療部 専門研修プロ グラム	5	高澤 知規		集中治療専門医／日本集中治療医学会	高澤 知規
病理部	群馬大学医 学部 病理専門研 修プログラ ム	3	小山 徹也	病理専門医／ 日本病理学会	細胞診専門医／日本臨床細胞学会 分子病理専門医／日本病理学会	横尾 英明 伊古田勇人
リハビリ テーション 部	群馬大学リ ハビリテー ション科 専門研修プロ グラム	3	和田 直樹	リハビリテーション科専 門医／ 日本リハビリテーション 医学会	脳卒中専門医／日本脳卒中学会 義肢装具専門医／日本義肢装具学会	田澤 昌之
救急科	群馬大学医 学部附属病 院 救急科専門 研修プログ	3	大嶋 清宏	救急科専門医／ 日本救急医学会	集中治療専門医／日本集中治療医学会 腹部救急認定医／日本腹部救急医学会 熱傷専門医／日本熱傷学会 認定クリニカル・トキシコロジスト／日本中毒学会	大嶋 清宏 澤田 悠輔 中島 潤 一色 雄太 福島 一憲

	ラム				外傷専門医／日本外傷学会	
総合診療科 群馬大学医学部附属病院 総合診療専門研修プログラム	6	小和瀬桂子	総合診療専門医 ／ 日本専門医機構		総合内科専門医／日本内科学会（協議中）	小和瀬桂子 佐藤 浩子 堀口 昇男
					新・家庭医療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会	
					病院総合診療専門医／日本病院総合診療医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
形成外科 群馬大学形成外科研修プログラム	3	牧口 貴哉	形成外科専門医 ／ 日本専門医機構		形成外科専門医／日本形成外科学会	牧口 貴哉 長谷川泰子
					皮膚腫瘍外科分野指導医／日本形成外科学会	
					再建・マイクロサーボジャリーフィールド指導医／日本形成外科学会	
					日本創傷外科学会専門医／日本創傷外科学会	

※形成外科領域については、神戸大学の神戸大学形成外科研修プログラムの連携施設として専門研修が可能です。

専攻医として一般社団法人日本専門医機構が認定する基本領域の専門医の取得を目指す者の身分を、群馬大学医学部附属病院シニアレジデントとしている。

（当院のシニアレジデント制度の特色）

1. 大学病院／関連病院の優れた指導医のもとで、専門医修得に必要な多くの症例／手技を経験できる。
2. サブスペシャルティ分野につながる幅広い経験を積むことができる。
3. 大学院・社会人大学院に入学し、研修と研究の両立を目指すことができる。
4. 国内及び海外留学を積極的に勧める。
5. 希望者は、群馬大学医学部附属病院医師ワークライフ支援プログラムを利用することが可能である。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	138人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
石井 秀樹	循環器内科	教授	29年	
前野 敏孝	呼吸器・アレルギー内科	准教授	30年	
浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	教授	29年	
山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	講師	24年	
廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	教授	34年	
半田 寛	血液内科	准教授	33年	
池田 佳生	脳神経内科	教授	31年	
福田 正人	精神科神経科	教授	40年	
滝沢 琢己	小児科	教授	28年	
佐伯 浩司	消化管外科	教授	29年	
調 憲	肝胆脾外科	教授	37年	
調 憲	呼吸器外科	教授	37年	
阿部 知伸	循環器外科	教授	31年	

藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	准教授	23年	
調 憲	小児外科	教授	37年	
筑田 博隆	整形外科	教授	28年	
茂木 精一郎	皮膚科	教授	24年	
鈴木 和浩	泌尿器科	教授	35年	
秋山 英雄	眼科	教授	27年	
近松 一朗	耳鼻咽喉科	教授	34年	
大野 達也	放射線治療科	教授	30年	
対馬 義人	放射線診断核医学科	教授	35年	
岩瀬 明	産科婦人科	教授	30年	
麻生 知寿	麻酔・集中治療科	准教授	28年	
横尾 聰	歯科口腔・顎顔面外科	教授	36年	
登坂 雅彦	脳神経外科	准教授	30年	
木村 孝穂	検査部	准教授	31年	
徳江 豊	感染制御部	准教授	38年	
対馬 義人	放射線部	教授	35年	
高澤 知規	集中治療部	准教授	27年	
横尾 英明	病理部	教授	31年	
大嶋 清宏	救急科	教授	31年	
小和瀬 桂子	総合診療科	教授	28年	
和田 直樹	リハビリテーション部	教授	28年	
牧口 貴哉	形成外科	講師	24年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・キャリア専門コース(がん看護コースI—①) 2023年6月19日…32名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースI—②) 2023年7月31日…31名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースI—③) 2023年9月25日…31名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースI—④) 2023年10月16日…31名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースI—⑤) 2023年11月20日…32名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースII—1) 2023年7月21日…22名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースII—2) 2023年9月1日…22名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースII—3) 2023年10月20日…23名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースII—4) 2023年11月17日…22名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースII—5) 2023年12月15日…24名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースIII—①) 2024年1月19日…8名
- ・キャリア専門コース(がん看護コースIII—②) 2024年2月16日…8名
- ・キャリア専門コース(糖尿病看護コースI—①) 2023年9月6日…36名
- ・キャリア専門コース(糖尿病看護コースI—②) 2023年9月21日…37名
- ・キャリア専門コース(糖尿病看護コースI—③) 2023年10月13日…35名
- ・キャリア専門コース(糖尿病看護コースII—①) 2023年11月15日…33名
- ・キャリア専門コース(糖尿病看護コースII—②) 2023年12月7日…29名
- ・キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースI—①) 2023年7月10日…46名
- ・キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースI—②) 2023年9月11日…46名
- ・キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースII—①) 2023年10月18日…37名
- ・キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースII—②) 2023年12月11日…39名

- ・ キャリア専門コース(皮膚排泄ケアコースⅡ—③) 2024年2月14日…37名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅠ—①) 2023年7月19日…40名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅠ—②) 2023年9月15日…35名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅠ—③) 2023年9月27日…34名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅡ—①) 2023年10月…30名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅡ—②) 2023年11月27日…27名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅡ—③) 2023年12月12日…24名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅢ—①) 2023年11月10日…5名
- ・ キャリア専門コース(摂食・嚥下障害看護コースⅢ—②) 2024年1月12日…5名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・ リーダーシップⅠ コーチング基礎 2023年6月…45名
- ・ リーダーシップⅡ 2023年11月29日…32名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・ がん看護基礎講座 2023年11月11日…31名(院外)
- ・ がん診療連携協議会研修会「緩和ケアについて」 2023年11月18日…114名
- ・ がん登録実務者研修 2024年1月27日…47名
- ・ 緩和ケアチーム研修 2024年2月3日…12名

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長：齋藤 繁
管理担当者氏名	総務課長：茂木 克之、医事課長：野村 恵子

診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	保管場所	管理方法
	病院日誌	総務課	診療録による管理(電子媒体及び紙媒体)
	各科診療日誌	各診療科	
	処方せん	システム統合センター 薬剤部	診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについては、診療情報管理規程により、原則として診療記録は所持できないと定めている。例外として、診療情報管理担当者に許可を得て医学研究教育及び病院管理又は診療統計に必要な資料の作成のため、複製を所持することができる。
	手術記録	システム統合センター 医事課	電子媒体で診療記録の複写を所持する場合は、各自が保有する電子化された患者個人情報の保護に関する取扱いに定めている。
	看護記録	システム統合センター 医事課	
	検査所見記録	システム統合センター 医事課	
	エックス線写真	システム統合センター 各診療科	
	紹介状	システム統合センター 医事課	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	システム統合センター 医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	紙媒体のファイルを保管、整理
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	
規則第一條の十一第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	紙媒体のファイルを保管、整理
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課 紙媒体のファイルを保管、整理	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 管理運営課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 管理運営課	
		医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	臨床工学部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録  規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	紙媒体のファイルを保管、整理
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
	医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課	
	診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医事課	
	医療安全管理部門の設置状況	医事課	
	高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
	未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
	監査委員会の設置状況	総務課	
	入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課、医療の質・安全管理部	
	他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課	
	職員研修の実施状況	医事課	
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課	
	管理者が有する権限に関する状況	総務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室（大学本部）	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課 (大学本部)	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長:齋藤 繁	
閲覧担当者氏名	総務課長:茂木 克之	
閲覧の求めに応じる場所	・医学部附属病院	
閲覧の手続の概要	<p>・閲覧希望者がいた場合には総務課にて対応している。</p>	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## 規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 当院における医療安全管理の基本的考え方：安全文化の育成</li><li>2. 医療安全を推進するための委員会等の設置</li><li>3. 職員に対する研修の基本方針</li><li>4. 医療事故報告などの医療に関わる安全の確保を目的とした改善の方策に関する基本方針</li><li>5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 情報の共有に関する基本方針（当該指針の閲覧に関する基本方針）</li><li>7. 患者相談への対応に関する基本方針</li><li>8. その他の医療安全のために必要な基本方針</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設置の有無（有・無）</li><li>・ 開催状況：年12回</li><li>・ 活動の主な内容：<p>(1) 医療業務安全管理委員会</p><ol style="list-style-type: none"><li>1. 本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。</li><li>2. 分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の立案及び実施並びに従事者への周知に関すること。</li><li>3. 改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。</li><li>4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療の質・安全管理部への報告の実施の状況の確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること。</li><li>5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の過程では必要がない処置又は治療が必要となったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療の質・安全管理部への報告の実施の状況に関する確認並びに確認結果の病院長への報告に関すること。</li><li>6. 実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための当院職員への研修及び指導に関すること。</li><li>7. 医療の質・安全管理部が行う医療安全に資する診療内容のモニタリングの内容に関すること。</li><li>8. 本院の全職員に受講させる医療安全に関する研修に関すること。</li><li>9. 医療業務の安全管理指針に係る病院長への提言に関すること。</li><li>10. 関係機関への報告及び講評に係る病院長への提言に関すること。</li><li>11. その他医療業務の安全管理に関する必要な事項。</li></ol><p>(2) 医療事故防止専門委員会</p><ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故防止マニュアルに関すること。</li><li>2. インシデントに係る調査及び改善に関すること。</li><li>3. 医療事故防止のための資料収集に関すること。</li><li>4. 職員に対する医療事故防止の啓発及び研修に関すること。</li><li>5. その他医療業務の安全管理に関する必要な事項。</li></ol></li></ul>

(3) 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年17回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療安全職員研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『特定機能病院に求められる医療の質・安全』</li> <li>・ 『共に医療安全の推進を願って～医療事故被害者の実像と医療者への期待～』</li> <li>・ 『インシデント発生時の流れと医療費等の補償』</li> </ul> </li> <li>○ 医療安全セミナー <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『安全で確実な鎮痛・鎮静』</li> <li>・ 『院内肺血栓塞栓症予防マニュアルについて』</li> <li>・ 『医療安全に活かすせん妄の基礎知識』</li> <li>・ 『ティーチバック』</li> <li>・ 『患者対応における対話の重要性』</li> </ul> </li> <li>○ Team STEPPS®研修 7回</li> <li>○ 医療対話推進者研修</li> <li>○ ポケットマニュアルに関するe-learning</li> </ul> <p>※各研修はオンデマンドで配信し年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。</p> <p>※年2回の受講が義務付けられている医療安全管理研修の受講率は100%である。</p> <p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容：</li> <li>○ 各部門にリスクマネージャー80名を配置（R5.9.1現在）</li> <li>○ 部署、医療の質・安全管理部、各委員会において分析、対策立案を行い、実施状況を確認。院内に向けて、リスクマネージャー会議内容及び『院内医療安全情報』を発信している。医療の質・安全管理部及び各種委員会での検討事項を各部署にフィードバックし、日々及び定期の巡視等でその実施状況を確認している。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 感染対策委員会及び感染制御部</li> <li>3. 職員研修</li> <li>4. 病院感染発生の状況調査並びに病院感染発生時の対応</li> <li>5. 病院感染対策マニュアル</li> <li>6. 患者への情報提供と説明</li> <li>7. その他の病院感染対策の方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染対策のための指針の策定に関する事項</li> <li>2. 感染対策の実施及び指導に関する事項</li> <li>3. 問題となる感染症の発生時及び発生が疑われる場合における病院長への状況報告及び速やかな発生原因の分析、改善策の立案及び実施並びに周知に関する事項</li> <li>4. 立案した改善策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関する事項</li> <li>5. その他感染対策に関し必要な事項</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容 (すべて) :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『アフターコロナ時代の感染対策と抗菌薬』</li> <li>・ 『群馬大学医学部附属病院の抗菌薬使用状況』『当院の耐性菌の推移～AMR対策アクションプランを中心に～』『血液培養サーベイランス結果と問題点』『多機能診療棟の使用方法』</li> </ul> <p>※各研修はオンデマンドで配信し年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。 ※年2回の受講が義務付けられている医療安全管理研修の受講率は100%である。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎週感染制御部ミーティングで各部署の感染症の発生状況を確認し、感染対策及び感染症治療の内容を検討し、問題点がある場合は現場へICT巡視及びAST巡視を通じてフィードバックしている。</li> <li>○ 4職種で構成されたICTメンバーによる院内ラウンドを毎週行い、患者毎の感染対策の遵守状況や環境巡視を行い改善につなげている。</li> <li>○ 医療関連感染サーベイランスは、SSI、BSI、UTI、VAEを実施し、プロセスサーベイランスでは手指衛生向上のため、手指消毒剤の消費量や遵守率を確認している。また、結果を分析し対象部署へフィードバックを行い改善に努めている。</li> <li>○ 抗菌薬適正使用支援として、感染症治療に関するコンサルテーション、血液培養陽性者および広域抗菌薬使用患者のスクリーニングを毎日行っているほか、毎週ASTラウンドを行ない抗菌薬適正使用の推進を図っている。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ( <input type="radio"/> 無 )
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入職者全員を対象にした医薬品の取扱いについての講義を実施</li> <li>○ 看護部開催の新人看護師を対象にした「静脈注射研修会」の講義(注射薬(ハイリスク薬)の取扱い等を担当</li> <li>○ 全職員を対象とした医薬品安全管理研修を実施</li> </ul>	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ( <input type="radio"/> 無 )</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「医薬品の安全使用の業務手順書」に基づいた業務の実施状況について、チェックリストにより毎月確認している。</li> <li>○ 医療業務安全管理委員会にて実施状況を報告している。</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ( <input type="radio"/> 無 )</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ サイトメガロウイルス網膜炎に対するガンシクロビル硝子体注射の薬剤濃度変更</li> <li>○ 経口摂取困難のため保険診療基準を超えるKCLを投与した1例</li> <li>○ ダウン症候群の退行様症状に対するアリセプトの使用</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 処方箋の疑義照会による情報把握</li> <li>○ 病棟担当薬剤師からの情報提供</li> <li>○ ガイドライン等で記載があるが適応の無い場合は、適応外申告書の受理による適応外使用の把握。</li> <li>○ 臨床倫理委員会専門委員会で承認された未承認薬や適応外の医薬品の使用状況の確認と把握。</li> <li>○ 医薬品医療機器総合機構からのメール受信(PMDAメディナビ)</li> <li>○ 製薬企業のMRからの情報収集</li> </ul>

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年90回 (ME機器等)  年8回 (放射線機器)
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床工学部が管理している医療機器（5品目）については、装置の有効性・安全性および操作方法・トラブル対応・保守点検等について受講者に対し説明している。研修会後に理解度テストを行い、その場で回答を行い、理解を深めてもらうよう工夫をしている。</li> <li>新規導入および現場職員からの研修依頼に対し、装置の基本的操作、特徴等について説明を実施している。</li> <li>放射線治療部門（リニアック及びマイクロセレクtron）は、新規スタッフに対し4回、定期研修を2回実施、重粒子部門は、定期研修を2回実施の合計8回の研修を開催した。</li> <li>研修会の対象者は、部門に配置された診療放射線技師及び看護師とし、内容は、装置の有効性使用方法、不具合対応、法令遵守の項目について、部門主任が講師となり研修を実施した。</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有 )</li> <li>機器ごとの保守点検の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、除細動装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニタ、下肢圧迫装置、電気メス、麻酔器、患者体温管理装置、手術台、内視鏡装置等について、年間点検スケジュールを策定し、それに沿って点検を実施している。点検内容は、外装点検、各動作点検、警報動作確認を実施。人工心肺、人工呼吸器、血液浄化装置、麻酔器等は、年1回メーカーに保守点検を依頼している。</li> <li>リニアック、マイクロセレクtron、重粒子線治療装置は保守契約を結び保守点検を実施。End of support (EOS) となった機器については、スコット点検にて保守を実施している。</li> <li>放射線部保有のクラスIIの装置については、保守契約、スコット点検、自主点検により保守を実施している。</li> <li>隔月で開催されている臨床工学部運営委員会にて、保守点検計画及び保守点検の実施状況を報告している。</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 )</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>PMDAからの情報及びメーカーから情報収集している。医療機器等の改修案内等は臨床工学部運営委員会にて医療機器安全管理責任者に報告している。</li> <li>未承認等の医療機器を使用する際または医療機器の適応外使用する際は、担当医が先端医療開発センターに申請し、同センターから臨床倫理委員会専門委員会に諮って審議し、その結果に基づき同センターが使用について決定した後に、先端医療開発センターから診療科等の長に通知するとともに病院長に報告している。臨床倫理専門委員会の医療機器安全管理責任者が委員となっている。</li> </ul>	

- 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：
- その他の改善のための方策の主な内容：
  - メーカー提供の安全情報について臨床工学部運営委員会にて報告・周知を行う。
  - 臨床工学部にて運用している機器管理システムに放射線機器の登録を実施。院内の機器の円滑な管理のため情報共有している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者の資格（医師・歯科医師）</li> <li>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 副病院長を医療安全管理責任者に選任し、医療業務安全管理委員会において下記部門及び責任者から医療安全に関する報告を行わせ、状況を確認している。</li> </ul>									
<table> <tr> <td>医療安全管理部門</td><td>=医療の質・安全管理部</td></tr> <tr> <td>医療安全管理委員会</td><td>=医療業務安全管理委員会</td></tr> <tr> <td>医薬品安全管理責任者</td><td>=薬剤部長</td></tr> <tr> <td>医療機器安全管理責任者</td><td>=臨床工学部長</td></tr> </table>	医療安全管理部門	=医療の質・安全管理部	医療安全管理委員会	=医療業務安全管理委員会	医薬品安全管理責任者	=薬剤部長	医療機器安全管理責任者	=臨床工学部長	
医療安全管理部門	=医療の質・安全管理部								
医療安全管理委員会	=医療業務安全管理委員会								
医薬品安全管理責任者	=薬剤部長								
医療機器安全管理責任者	=臨床工学部長								
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 <input checked="" type="checkbox"/> ( 7名 ) 無 <input type="checkbox"/>								
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li> </ul> <p>医薬品安全管理責任者の指示により、薬剤部DIセンター担当者(DIセンター主任)が担当している。採用医薬品について、医薬品添付文書情報の確認、医薬品医療機器総合機構からのメール受信、医薬品製造販売業者や行政機関、学術雑誌からの情報収集を行い管理している。また情報収集した内容で周知が必要と思われる情報については、処方医や診療科への書面の周知の他、毎月発行しているDIニュースで院内職員に周知している。なお、緊急性のある場合には全職員へのメール送信も実施している。</p>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</li> </ul> <p>薬剤部DIセンター担当者が未承認薬等の使用に関する状況を把握している。使用に関する情報は、薬剤師GRMや、薬剤部から委員として出席している臨床倫理委員会専門委員会等から収集している。ガイドライン等に記載はあるが未承認の医薬品については、手順に従って適応外使用申告書を先端医療開発センターで受理し、医薬品安全管理責任者、医薬品安全管理副責任者で確認し把握している。</p>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/></li> <li>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部，職種 薬剤師 (DIセンター主任)) (所属：<input type="text"/>, 職種 <input type="text"/>)</li> </ul>									
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></li> </ul>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「群馬大学医学部附属病院医療行為等の説明及び同意の取得に関する規程」</li> </ul>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</li> </ul>									

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療行為等の説明に関する責任者の指定（医療の質・安全管理部長）</li> <li>2. 説明書による説明及び同意書の取得が必要な医療行為等の明示</li> <li>3. 説明内容</li> <li>4. 人権及び自己決定権の尊重</li> <li>5. 同席者</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ その他、「インフォームド・コンセントに関する指針」において、看護師の同席や役割、カルテ等への記録方法も含め、具体的に明示している。</li> <li>○ 侵襲的医療行為に関する説明同意文書については、必要な事項を網羅した書式及び形式を整えた「雛型」を各診療科等に明示し、これを基に各診療科等で作成した説明同意文書を臨床倫理委員会専門委員会で承認する体制を構築している。</li> </ul>
--

<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 診療情報管理部長が診療録等の管理に関する責任者を兼任しており、そのもとで以下の業務を行っている。</li> <li>○ 診療録の記載内容について、多職種によるピアレビューを年 2 回実施している。その結果を診療科にフィードバックし、また評価の低い診療科には、改善計画書の提出を求めている。</li> <li>○ 診療情報管理士によるカルテレビューを、各診療科から概ね 5 例ずつ抽出し行っている。年 2 回 診療情報管理委員会でフィードバックしている。</li> </ul>	
<p>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員 : 専従 (6) 名、専任 ( ) 名、兼任 (1) 名</li> <li>　　うち医師 : 専従 (2) 名、専任 ( ) 名、兼任 (1) 名</li> <li>　　うち薬剤師 : 専従 (1) 名、専任 ( ) 名、兼任 ( ) 名</li> <li>　　うち看護師 : 専従 (3) 名、専任 ( ) 名、兼任 ( ) 名</li> </ul> <p>(注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の質にすること。</li> <li>2. 安全管理委員会、事故防止専門委員会、事故調査専門委員会及びリスクマネージャー会議の審議事項に係る助言並びに当該会議等の資料・議事録の作成及び保存等庶務的事項に関するこ。</li> <li>3. 医療事故発生時の即時対応並びに事故調査専門委員会開催の判断に関するこ。</li> <li>4. 事故等に関する診療録・看護記録等への正確かつ十分な記載についての確認・指導に関するこ。</li> <li>5. 患者・家族への説明及び事故発生時の対応状況についての確認・指導に関するこ。</li> <li>6. 事故等の原因究明の適切な実施についての確認・指導に関するこ。</li> <li>7. インシデント及びアクシデント報告書の管理及び即時調査・分析に関するこ。</li> <li>8. ゼネラルリスクマネージャーの育成に関するこ。</li> <li>9. 医療安全に係る連絡調整並びに医療安全対策の推進に関するこ。</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況</p>	

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（36件）、及び許可件数（36件）  
※同一症例は除いています。
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：高難度新規医療技術の使用の決定、実施の支援及びモニタリングなど
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（18件）、及び許可件数（17件）  
※委員会に申請者が欠席し審議ができず、その後申請を取り下げたため
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：未承認新規医薬品等の使用（保険適用外使用も含む）の決定、実施の支援及びモニタリングなど
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

#### ⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年437件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年372件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - 死亡事例は全て医療の質・安全管理部に報告させ、医療業務安全管理委員会に報告するよう徹底している。
  - 上記に加えて死亡症例検証委員会で全死亡症例を詳細かつ効果的に検証している。

#### ⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（  (病院名：高知大学医学部附属病院) ・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（  (病院名：金沢大学附属病院) ・無）
- ・技術的助言の実施状況

A. 診療体制の変化に伴う情報共有の在り方について

- ・統一ルールの制定は検討予定がないとのことであったが、診療科特有の事情を考慮しつつも、最低限の統一ルールは決めてよいように思われる。例えば、実態把握を行うことで見えてくるものがあるのではないか。

B. インフォームド・コンセント、医療安全に係る研修や会議について

- ・e-Learning を活用した研修が行われているが、受講履歴の管理が不十分とのことであったので、病院側も個々のスタッフも容易に確認できるシステム構築がのぞまれる。

C. タスク・シフト/シェアについて

- ・タスクをシフトあるいはシェアされた側の負担が増大していないか、検討する必要がある。

D. 情報共有に関する情報セキュリティ管理について

- ・特になし

E. 「医師の働き方改革」に関して

- ・今後、設置場所による「労働」「自己研鑽」との区別が必要になってくる。
- ・必ずしも事務職員の負担軽減までには至っておらず、今後の課題であろう。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- 「群馬大学医学部附属病院医療安全管理指針」（令和5年11月28日改訂・施行：医療安全管理委員会）の「7) 患者相談への対応に関する基本方針」に記載するとおり、医事課が主体となり、医療の質・安全管理部、患者支援センターと連携して対応している。患者相談の一次対応の組織としては、「群馬大学医学部附属病院患者相談窓口設置要項」（平成31年2月4日制定）により、患者支援センター長を責任者とし、医師、看護師、事務職員及びソーシャルワーカーからなる患者相談窓口を設置。相談内容により各部署に振り分け対応している。そのためのフローを整備しているほか、相談内容とその対応についての検討を行うカンファレンスを原則週1回実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- 病院の新規採用職員研修において、医療安全の基本等について、医療の質・安全管理部長による研修を実施している。
- 医療安全・感染対策職員研修に加え、最近のトピックや改革関連をテーマにした安全セミナーを開催している。また、医療事故防止ポケットマニュアルの習熟度を確認する研修をe-learning形式で、医療職必須の研修として実施している。

- 各研修は、一部を除きオンデマンドで配信し、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。
- 令和5年9月11日から15日にかけて「医療安全週間」を実施し、その中で、医療事故被害者の方を講師として講演会を実施した。また、医療安全週間中は、各部門から活動紹介のポスター展示や医療安全に関する標語の掲示を行った。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- 2023年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）
  - ・令和5年11月20日 病院長（管理者）及び薬剤部長（医薬品安全管理責任者）
  - ・令和5年12月15日 放射線部長（放射線安全管理責任者）
  - ・令和6年1月26日 臨床工学部長（医療機器安全管理責任者）
  - ・令和6年2月26日 副病院長（医療安全管理責任者）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講すべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価【一般病院3（主機能）、精神科病院（副機能）】

- ・訪問審査受審日：令和5年12月13日～15日
- ・認定期間：令和6年1月26日～令和7年2月28日
- ・交付日：令和6年7月12日
- ・初回認定：平成16年1月26日

・評価に基づき改善のために講すべき措置の内容の公表状況

ホームページから日本医療機能評価機構のホームページへリンクするように設定しており、評価に基づき改善のために講すべき措置の内容等の評価の詳細を公表している。

・病院機能評価認定について | 群馬大学医学部附属病院

[https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page\\_id=10787](https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10787)

・評価を踏まえ講じた措置

(1) 倫理的な課題の把握と対応の標準化について

臨床の場で発生している倫理的課題を把握し、病院としての方針や対応を継続的に検討する仕組みを整備するため、臨床倫理委員会専門委員会の下に倫理コンサルテーションチームを設置した。

(2) 返書について

「返書作成及び管理・運用に係る取扱いについて」を一部見直し運用を開始した。

(3) デバイスサーベイランスについて

全部署に対しデバイスサーベイランス（BSI、UTI、VAE）を開始し、ベースラインの把握と改善への取組を行い、医療関連感染の低減を目指す。

(4) BLS 訓練について

院内 BLS 研修を継続的に実施するため、e-learning と実技研修により技術を担保する仕組みを構築し、全職員が3年ごとに受講することとした。

(注) 記載時点の状況を記載すること

## 規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

### 管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・基準の主な内容
- 1. 医師免許を有している者
- 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者  
具体的には医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等
- 3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者  
具体的には、当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力等
- 4. これまで推進してきた医療の質の保証や医療安全に係る改善・改革を継続するために必要な資質・能力を有している者  
具体的には、医療安全文化の醸成・充実や患者参加型医療の推進等について、評価・効率化・改良等も加えながら実行する姿勢と指導力等
- 5. 当院に求められる使命を遂行するために必要な資質・能力を有している者  
具体的には、大学の附属病院としての使命である、診療・教育・研究の充実等はもとより、国立大学法人群馬大学の第4期中期目標に記載された医学部附属病院に関する次の目標を継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等

#### 国立大学法人群馬大学第4期中期目標 抜粋

世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。

- ①高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、患者の権利に配慮し、医療安全を第一に考えた患者中心の質の高い医療を安定的に供給するとともに、医療安全の文化を広く発信する。
- ②我が国の公共政策を踏まえ、群馬県の中核病院として群馬県と連携し持続可能な地域医療体制の構築に寄与する。
- ③地域特性に根差し、かつ国際社会に貢献しうる医師及び医学研究者等の養成を行うとともに、未承認医療機器や保険未収載機器等の臨床試験を推進するなど先端的な医療分野を先導し、地域の中核となって活躍できる医療人を養成する。
- 6. 群馬県の中核病院として、地域医療に貢献するために必要な資質・能力を有している者  
具体的には、群馬県や群馬県医師会等とも連携し、地域の中核病院として県域全体の医療に貢献すること等について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等
- ・基準に係る内部規程の公表の有無 (  有  無 )
- ・公表の方法  
○大学のホームページに掲載  
<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</li> <li>選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</li> <li>公表の方法</li> </ul> <p>○大学のホームページに掲載  <a href="https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho">https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho</a></p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	特別の間係
坂本 淳一	群馬大学・理事	○	(細則第1号 学長が指名する理事) 総務・財務の担当理事であるため。	有・無 <input checked="" type="radio"/>
調 憲	群馬大学・大学院 医学系研究科長		(細則第2号 医学系研究科長) 群馬大学医学部附属病院長候補者選考会議細則第3条第1項第2号により医学系研究科長と定めているため。	有・無 <input checked="" type="radio"/>
河村 恵美	群馬大学・医学部 附属病院看護部長		(細則第3号 医学部附属病院から選出された教員又は職員) 群馬大学医学部附属病院に看護師として長年勤務し、附属病院の状況に詳しく看護師を代表した立場であるため。	有・無 <input checked="" type="radio"/>
北川 雄光	慶應義塾・常任理事		(細則第4号 学外有識者) 慶應義塾大学病院長などを歴任し、医学・医療について豊富な経験と高い識見を有しているため。	有・無 <input checked="" type="radio"/>
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML ・理事長		(細則第4号 学外有識者) 厚生労働省の大学附属病院等のガバナンスに関する検討会の構成員を務められるなど医療安全に対する高い識見を有しているため。	有・無 <input checked="" type="radio"/>
永井 良三	自治医科大学・学長		(細則第4号 学外有識者) 東京大学医学部附属病院長や自治医科大学長などを歴任し、医学・医療について豊富な経験と高い識見を有しているため。	有・無 <input checked="" type="radio"/>
武藤 幸夫	群馬県社会福祉事業団・理事長		(細則第4号 学外有識者) 群馬県健康福祉部長などを歴任し、群馬県の保健・医療・福祉全般に豊富な知識を有しているため。	有・無 <input checked="" type="radio"/>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための  
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="radio"/> ・無		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 群馬大学医学部附属病院規程において、「病院運営会議」を「管理運営に関する重要事項を審議するため」の機関と位置づけている。</li> <li>○ 病院運営会議の審議事項は、「群馬大学医学部附属病院運営会議規程」に規定され、病院の医療提供機能、教育研修機能及び研究開発機能を達するための基本的計画に関する重要事項について審議するほか、次の各号に掲げる事項について審議する。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 運営方針に関すること。</li> <li>(2) 中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。</li> <li>(3) 予算及び決算に関すること。</li> <li>(4) 人員配置に関する事（事務職員を除く。）。</li> <li>(5) 施設の設置及び廃止に関する事。</li> <li>(6) その他病院の管理運営に関する重要事項</li> </ol> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 円滑な病院運営に資するため、診療科長や部門長等で組織する「臨床主任会議」において、病院運営会議の審議及び報告事項を周知している。また、病院の管理運営について必要な意見を聞くため、各診療科等から選出された中堅層の職位で組織する「病院連絡会議」において、同様に周知するとともに、各診療科等においては、内容をカンファレンス等で広くスタッフに周知している。</li> </ul> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）</p> <p>・公表の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本学ホームページ（病院）において掲載  <a href="https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799">https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799</a> </li> </ul> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 病院運営会議に外部有識者として参画している群馬県病院協会長等から、その都度意見聴取を行い、俯瞰的視点からの意見等を管理及び運営に活かしている。</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
齋藤繁	<input checked="" type="radio"/>	医師	病院長
調憲		医師	副病院長（医療安全担当）
河村恵美		看護師	副病院長（看護・療養環境担当）
福田正人		医師	特命副病院長（病院機能評価担当）
鈴木和浩		医師	特命副病院長（地域連携・病床運用担当）
大嶋清宏		医師	病院長補佐（保険診療・防災担当）

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
齋藤繁	<input checked="" type="radio"/>	医師	病院長
調憲		医師	副病院長（医療安全担当）
河村恵美		看護師	副病院長（看護・療養環境担当）
福田正人		医師	特命副病院長（病院機能評価担当）
鈴木和浩		医師	特命副病院長（地域連携・病床運用担当）
大嶋清宏		医師	病院長補佐（保険診療・防災担当）

対馬 義人		医師	病院長補佐（院内環境・労務担当）
池田 佳生		医師	病院長補佐（広報・卒後研修・教育担当）
佐伯 浩司		医師	病院長補佐（医療機器安全管理担当）
西 博文		事務職員	病院長補佐（施設担当）
高橋 明		事務職員	病院長補佐（財務・管理担当）
横尾 聰		歯科医師	特命病院長補佐（歯科医療）
山本 康次郎		薬剤師	特命病院長補佐（薬事）
川田 耕二		事務職員	特命病院長補佐（渉外）
長谷川 誠		技術職員	リハビリテーション部副部長
田島 行雄		技術職員	臨床工学部副部長
西松 輝高		病院顧問	群馬県病院協会会長
田村 遵一		病院顧問	群馬パース大学教授

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

#### ・管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）

##### ・公表の方法

- 本学ホームページ（病院）において掲載

[https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page\\_id=10799](https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799)

##### ・規程の主な内容

- 病院の目的、病院長の業務、病院長を補佐する各幹部職員の業務、病院運営会議ら各種会議体の役割、病院に設置される診療科・診療施設等

##### ・管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

- 副病院長…病院長の職務を補佐し、病院長不在の時はその職務を代行する。医療安全管理責任者としての役割も負う。
- 病院長補佐…病院長が指示する管理運営等に関する個別具体的な事項について、企画・立案及び連絡調整等を行う。
- 病院顧問…病院の診療及び経営に関する諸課題や重要事項について、助言を行う。

##### ・病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

- 2023年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）

令和5年11月20日 病院長（管理者）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する  
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・監査委員会の開催状況：年2回 ※令和5年度実績</li><li>・活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ &lt;令和5年度第1回病院監査委員会 令和5年10月12日&gt; (議事内容)<ul style="list-style-type: none"><li>1 副委員長の指名について</li><li>2 医療安全に係る業務の状況について<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 医療業務安全管理委員会</li><li>(2) 医療安全管理部門</li><li>(3) 各責任者等</li></ul></li><li>3 院内視察</li></ul></li><li>○ &lt;令和5年度第2回病院監査委員会 令和6年3月29日&gt;※Web会議形式で開催 (議事内容)<ul style="list-style-type: none"><li>1 病院機能評価の受審について</li><li>2 医療安全に係る業務の状況について<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 画像診断・病理診断報告書の未読状況</li><li>(2) 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品</li><li>(3) 医療監視の状況</li></ul></li><li>3 カルテ共有の外来への拡大について</li></ul></li><li>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有)・無 )</li><li>・委員名簿の公表の有無 (有)・無 )</li><li>・委員の選定理由の公表の有無 (有)・無 )</li><li>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有)・無 )</li><li>・公表の方法：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 本学ホームページにおいて掲載</li></ul></li></ul></li></ul>	

## 監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者団体連合会 理事長 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長		患者団体の代表として多くの経験及び医療の在り方に対しての高い識見を有し、主に医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・ 	2
神谷 恵子	神谷法律事務所 弁護士		弁護士活動を通じた医療安全等の分野で高い識見を有し、また本院の医療事故調査委員会の外部委員の経験から意見を述べることができる者	有・ 	1
川原 武男	社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会 会長		県域の健康福祉行政に豊富な経験を有する立場及び医療を受ける立場から意見を述べることができる者	有・ 	2
児玉 安司	新星総合法律事務所 弁護士／医師	○	医師、弁護士として医療安全、医療事故等の分野で高い識見を有する立場から意見を述べることができる者	有・ 	1
相馬 孝博	国立大学法人千葉大学 医学部附属病院 医療安全管理部 部長		医師及び医療安全管理部門の長として医療安全の分野で高い見識を有する立場から意見を述べることができる者	有・ 	1
中屋 光雄	群馬県医師会 監事		県域の医療・社会福祉に豊富な経験と知見を有し、医学教育に対しても高い識見を有する立場から意見を述べることができる者	有・ 	1

（注）「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

## 規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が 法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

### 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

#### ・体制の整備状況及び活動内容

- 病院長が行う病院運営が法令に適合することを確保するため、監査室（大学本部）が学長の命により行う内部監査で、法令の遵守状況を踏まえた病院運営の取組みに対する有効性を検証し、適時に見直しを行う。
- 監査室長（兼法務・コンプライアンス室長）及び室員が、病院運営会議の議事録及び資料の確認を行う。

- ・ 専門部署の設置の有無（ 有  無）

- ・ 内部規程の整備の有無（ 有  無）

- ・ 内部規程の公表の有無（ 有  無）

#### ・公表の方法

- 本学ホームページにおいて掲載  
<https://www.gunma-u.ac.jp/kisoku/>  
[https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page\\_id=10799](https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=10799)

## 規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による 業務の監督に係る体制の整備に係る措置

### 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
  - 病院監査の視点から、監査室長（兼法務・コンプライアンス室長）が病院長巡視及び医療業務安全管理委員会に毎回出席し、医療現場の視察、スタッフからの生の意見の聞き取り及び医療事故と再発防止策の確認並びに医療安全の確認等を実施している。
- 会議体の実施状況（年28回）
- 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年11回）※令和5年度実績
- 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）
  - 「国立大学法人役員会規則」「国立大学法人理事に関する申合せ」
- 公表の方法
  - 本学ホームページにおいて掲載  
<https://www.gunma-u.ac.jp/kisoku/>

### 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

### 会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に  
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（・）

○ 職員用のご意見箱や多様な内部通報方法を構築している。

- ・通報件数（年0件）

○ 令和5年度実績（職員用のご意見箱から0件）

- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（・）

○ 学外の弁護士が対応する医療安全に関する外部相談（通報）窓口を設置している。

「国立大学法人群馬大学公益通報者保護等規程」に、秘密の保持に配慮した通報の授受等必要な事項を定めている。

また、「群馬大学医学部附属病院職場改善のためのご意見等に関する申合せ」を定め、職場改善のための意見を授受する専用の窓口を設けている。

- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（・）

- ・周知の方法

○ 病院運営会議、臨床主任会議等で周知した。さらに、内部通報ホットラインについては、名刺サイズの周知のためのカードを作成し、全教職員に配布している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  各種がんの治療方針等について、診療科等の枠を超えた多職種で検討するキャンサーボード体制を整備。  キャンサーボード指針に従い、担当する診療科のみならず、関連する診療科の医師、薬剤師、看護師等の職種が参加する。	